

平成28年度

事業報告（案）

社会福祉法人相楽福祉会

目次

平成28年度 事業報告(案)

相楽福社会全体	1
総務部	5
健康管理部	9
相楽地域障害者生活支援センター	15
相楽作業所	22
相楽デイセンター	30
精華地域活動センター「心」	38
(クリエイティブスペース) ていすと	44
エコ・クリーン相楽	49
サービスセンター相楽	56
グループホーム サポートセンター「樹葉」	60

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度事業報告（案）

はじめに

新体制移行4年間の活動は法人創設理念と運営方針の継承性検証過程でもあったと言える。40年の歩みに於いて、創設黎明（れいめい）期（日曜学級・共同作業所時代）の先進性は高く評価しなければならないが、法人化以降措置制度から社会福祉基礎構造改革・支援費&契約制度へと時代が大きく変化する中であって、遵法は意識しつつも労基法無視の運動論的運営をもってサービス開発・実現優先（当時の革新的サービスの多くは現在確実な公的サービス制度化されている）で走り続けた結果、組織疲弊と共に財政危機を招き支援サービスの質・量担保不全という深刻な状況に陥ってしまった。以上の根本的総括と猛省を踏まえ、新体制は4年間かけて法人事業経営方針の転換を図って来た。

新体制は運営方針を事業継続性重視に転換し（無理のない安全安心サービス提供体制の構築を目指す）、職員への説明・協力を得て業務内容精査・組織合理化改善に鋭意努力（組織を明確に機能性・関係性で合理化＝小規模分散化事業所統廃合や事務分掌等組織再編等）を重ねた結果、支援の質を維持（加齢・重度化対応）しつつ、バランスの取れた収支財政状態・業務状態（適正な事業規模と緩やかなU字回復）に向かう事が出来たと評価している。

法令違反である職員過重労働状態（平成19年労働基準監督署是正勧告）については改善しつつも完全是正には全く不十分なところの現在最優先の難課題（利用者福祉と支援者待遇・労働環境とは恰も対立概念の如くして歴史的にも膠着未解決、福祉分野では特段に労働需給逼迫緊張化が常態）である点が辛い。他方この4年の継続改革（不適切請求事務や一部職員による利用者不適切支援等を猛省し是正・改善した＝資格の積極取得・内外職員研修・OJT・業務の組織的改革・整理等々）の流れの中で、支援内容・事業規模を法人力量に最適化努力して来た結果、他社会資源に連携した誠実な1資源のとして（利用者加齢・重度化対応の最適支援計画作成と実施、外他社会資源サービス利用や紹介等）、法人再生への道筋と実績が明るく見えている事を報告します。

I 運営指針に基づき評価

- 1 人権に配慮し個々に合わせた適切な支援を行うために、階層を意識した研修の充実をはかるとともに、個々の支援内容を定期的に見直す。
 - ・人権については今年度、同和問題の切り口から考える機会を持った。その他、新任、5年目まで、10年目まで、と経験年数に合わせ、障害の理解や医療研修を行った。また、研修レポート提出も行き、職員個々の問題意識や理解の確認を行った。外部研修への参加も行ったが、報告書を提出するにとどまり、今後は各事業所で共有する場の設定が必要である。
- 2 小規模に分散された事業所の合築をすすめ、組織的運営と施設の機能を明確化していく。
 - ・合築する候補地もあったが、金額的折り合いがつかず、今後の課題として残った。現在、町の紹介している物件もあり、実施に向けた検討を続けたい。
- 3 高齢化に則して、設備面の改善及び介護保険事業の利用、身体状況に配慮したグループ編成を行う。
 - ・昨年に引き続き、グループホームに訪問看護の入浴等を利用し、通所事業においては利用者の状況に合わせて、介護保険のデイサービスと並行通所される利用者も5名となった。今後、身障者トイレの増設や手すりの取り付けなどの設備改善を予定している。
- 4 各職員の事務分掌を明確にするとともに、計画及び報告を確実にを行い、評価を加えることで、組織的運営を行う。
 - ・報告書及び動静報告の書面に加え、メールを活用して各役割に応じた伝達を積極的に行った。各職員の個々の役割や担当は年度初めに明確にした。しかしながら、階層ごとの明確な事務分掌は不明瞭のままである。今後の課題として残った。
- 5 新規利用者の受け入れを行い、卒業後の通う場所の提供と財政の安定化を図っていく。
 - ・通所事業所2名、グループホーム1名の受け入れを行ったが、就労や通所施設利用のための退所者が4名あったことで、財政的な安定には結びついていなかった。今後も、身の丈に合った形での利用者受け入れは継続したい。

II 事業計画に基づき評価

- 1 組織的運営の確立
 - ・運営会議で全体にかかわる方向を出し、管理職会議で各事業所での具体化を検討し、職員会議にて全職員で確認を行う等、会議を中心に運営を

行った。

- ・日々の報告、連絡、相談を徹底し、計画書・報告書等を事業所間で共有した。
- ・小規模事業所の合築は適当な物件が見つからず、事業の合理的運営を進めるには至らなかった。

2 通所事業での活動内容の見直し

- ・作業所において高齢者を中心としたグループを編成し、個々の状況に応じたプログラム提供を始めた。
- ・前記の通り、小規模事業所の合築ができず、事業所ごとの機能の明確化が進まなかった。
- ・デイセンターの空調、作業所の照明設備等老朽化している部分の設備改善を進めた。
- ・昨年に引き続き、介護保険等他の資源の活用を進めた。
- ・利用者の日々の状況の変化に対してはメール等を活用しての情報共有を行い、大きな変化に対しては書面による動静報告を回覧した。

3 グループホームの安定化

- ・夜間支援のスタッフの増員を行い、夜勤化を取り入れ始めたが、十分なマンパワーを確保できず、通所系の職員の宿直に頼ったままで、今後の課題として残る。

4 相談支援の充実

- ・支援内容の困難化と量的広がりに対応するため、年度当初パートスタッフを増やしたが、通所事業での退職に伴い、相談担当スタッフが異動を余儀なくされ十分な配置を担保できなかった。今後、相談支援の業務の整理とマンパワーの確保が必要。

5 財政の安定化

- ・前期の通り、小規模の合築が実現しなかったため、利用者の受け入れは進まず、収入を増やすことにはつながらなかった。一方、人材確保が進まないことで、結果的に支出を抑えた結果になった。今後、利用者を迎い入れ、人材を確保できる、魅力ある施設（職場）づくりの取り組みが求められる。
- ・設備改善に関しては補助金を利用し、備品整備に関しては親の会からの寄付金の活用等により支出を抑えた。

6 職員育成と人材確保

- ・求人サイト広報等の投資をしたが、次年度の人材確保が不十分な状況を残した。夜間スタッフも併せて、一年を通しての人材確保を継続したい。
- ・各事業所でチェックシートを活用し、支援内容を定期的に確認した。

・研修は以下の研修を実施し報告書の提出を行った。

1) 法人主催の研修

<新任研修>

・法人の歴史、支援の基本、障害者施策他 3日間

<法人研修>

- | | | |
|----------------|--------------|-------|
| ・「同和問題の歴史」人権研修 | 三重県人権センター | 味岡一博氏 |
| 6月18日(土) | かしのき苑 | |
| ・「身体障害者の介助」 | 愛隣デイサービスセンター | 平田 義氏 |
| 7月5日(火) | 相楽デイセンター | |
| ・「自閉症の理解」 | 自閉症eサービス | 中山 清氏 |
| 10月13日(木) | 相楽デイセンター | |
| ・「精神障害者の理解」 | 朱雀工房 | 上村啓子氏 |
| 12月9日(金) | 相楽デイセンター | |
| ・「差別解消法・権利条約」 | 司法書士 | 藤井伸樹氏 |
| 6月9日(木) | 相楽作業所 | |

2) 外部研修への参加

京都府社会福祉協議会及び圏域障害者自立支援協議会等が実施する研修に参加。

3) 資格取得に向けて業務上の配慮を行った。

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 総務部事業報告（案）

昨年度に引き続き、継続した運営基盤を構築するための財政安定化を掲げ、以下の事業を実施した。

<計画に即した評価>

1 継続的運営のための財政安定化

- ・施設の統合を含めた経費の削減、各施設の運営と財政状況について所属長と連絡を密に取りながら予算執行状況を常にチェックし、事業計画に基づいた財務の運営ができるよう努めていく。
- ・出来る限りの資産留保に努め、修繕や人件費等積立金の積立ができるよう努力する。

昨年度に引き続き事業計画に基づく予算の執行を常に意識し、予算外の支出についてはそのほかの予算執行状況や削減に努め、各施設長とともに計画的に進めていくことができた。その結果、当期活動増減差額は28,374千円の黒字計上（昨年度は28,807千円の黒字）となった。

各施設とも設備の老朽化に伴う設備改修を予算通り進めた。しかし修繕や人件費等の資産留保には至らず、今年度の予算執行状況を見ながら積立金の計上を進めていきたい。

2 財政状況の認識強化

- ・四半期ごとに管理職会議において財政状況を報告確認し、財政状況の認識を強化していく。
- ・職員全体にも現状の周知を行い、法人全体で財政に対する意識づけを行っていく。

3か月ごとの四半期決算を作成し、運営会議、管理職会議にて報告を行った。しかし、職員全体に周知する点については実施には至らなかった。

財務諸表への理解を進めていくため、記載している内容をうまく伝える手段を構築し、積極的に伝えていけるようにしたい。

3 事務の効率化

- ・オンラインによる手続きが増加していく傾向にあり、積極的に導入し、効率的に事務作業を進める。

インターネットバンキングを始め、税務、社会保障関連についても電子証明書の取得により、オンラインによる手続きを進めることができた。これによる

通信費や移動時間の削減につなげることができ、効率的に業務を進めることができた。

4 理事会・評議員会の開催

平成28年度は、別添1のとおり理事会4回、評議員会3回を開催。事業報告、決算報告、事業計画、予算等各種審議を実施した。

また、社会福祉法の改定に伴う定款変更、評議員選任・解任委員会の設置や役員や評議員の新たな選任等も実施した。

5 平成27年度決算書の作成

平成27年度決算書から社会福祉法人会計基準に基づく決算書資料を作成。各種財務諸表、添付資料を作成した。

<別添1>

平成28年度 理事会・評議員会の開催状況

○理事会

	開催日時	場所	議案内容	出席 理事	出席 監事
第 1 回	5月18日	相楽デイセンター	第1号議案 平成27年度事業報告(案) について 第2号議案 平成27年度決算報告(案) について 第3号議案 監事監査報告について 第4号議案 非常勤職員就業規則の改定 および「育児介護休業に関 する規則の規定」の制定に ついて	9名	2名
第 2 回	12月6日	相楽デイセンター	第1号議案 社会福祉制度改革に伴う定 款変更について 第2号議案 就業規則の変更について 第3号議案 相楽デイセンターエアコン工 事に係る入札業者選定委員 会の設置について	10名	1名
第 3 回	2月21日	相楽デイセンター	第1号議案 評議員選任・解任委員会の 設置について 第2号議案 評議員選任・解任委員の選 任について 第3号議案 評議員選任・解任委員会運 営細則(案)について 第4号議案 評議員候補者の推薦につ いて	8名	1名
第 4 回	3月23日	相楽デイセンター	第1号議案 給与規程の改定について 第2号議案 平成28年度補正予算(案) について 第3号議案 平成29年度事業計画(案) について 第4号議案 平成29年度予算(案)につ いて 第5号議案 主要人事について	9名	1名

○評議員会

	開催日時	場所	議案内容	出席 評議員	出席 監事
第 1 回	5月18日	相楽デイセンター	第1号議案 補欠理事の選任について 第2号議案 補欠監事の選任について 第3号議案 平成27年度事業報告(案) について 第4号議案 平成27年度決算報告(案) について 第5号議案 監事監査報告について 第6号議案 非常勤職員就業規則の改 定および「育児介護休業に 関する規則の規定」の制定 について	19名	2名
第 2 回	12月6日	相楽デイセンター	第1号議案 社会福祉制度改革に伴う 定款変更について 第2号議案 就業規則の変更について 第3号議案 相楽デイセンターエアコン 工事に係る入札業者選定委 員会の設置について	18名	1名
第 3 回	3月23日	相楽デイセンター	第1号議案 任期満了に伴う理事・監事 の選任同意について 第2号議案 給与規程の改定について 第3号議案 平成28年度補正予算(案) について 第4号議案 平成29年度事業計画(案) について 第5号議案 平成29年度予算(案)につ いて 第6号議案 主要人事について	19名	1名

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 健康管理部事業報告（案）

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) 通所事業所の給食を円滑に運営して行けるように努める。

給食委託先に食中毒三原則（手洗い・加熱・保冷）を厳守するよう要望した。

また、利用者の嗜好を含めた献立（管理栄養士作成）で安全な食材を使用した給食を提供するように努めた。

【実施内容】

給食提供日数／年間480日

（2箇所…相楽作業所240日・相楽デイセンター240日）

提供食数 相楽作業所 14,779食・相楽デイセンター11,958食
（一ていすと除く）

平成28年9月から給食1食を570円（職員・一般）で、利用者は食材費340円負担で提供した。

(2) 利用者・職員の医療を含む健康全般に配慮し、健康で過ごせるよう支援する。

年度初めは看護師2名体制だったが、1名に減った為、検診等の利用者支援に職員の協力を得て、実施することができた。利用者の日々の体調管理に努め、相談のある時は看護師と連携を取り対応した。

2 事業内容

(1) 給食関係

① 利用者・職員の意見を聞きながら栄養バランスのとれた献立になるよう努める。また、個別対応も含めて適量配膳を目標として、残債の少ない給食にする。

美味しい給食となるよう嗜好調査を参考にしたり、利用者の直接の意見を聞き献立作成をした。日々の検食日誌を委託先にも閲覧してもらいながら、給食会議で利用者・職員の意見を検討した。

一人一人の栄養摂取目標量が違うので、健康も考慮した配膳になるように努めた。

② 毎月、納品食材の確認を行ない、国産野菜を使用するよう努める。そのためには、委託会社と連携を取り、安全な食材を使用し、美味しい給食を提供する。

また、地元産の食材(特産品を含む)を可能な限り給食に取り入れて行く。

地元産の食材(特産品を含む)を毎月4～5回(6品目位)給食に取り入れた。価格面で地元産が高すぎる場合のみ、国産の旬の野菜・果物を購入した。

③ 衛生面では、食中毒や感染症を起こさないように充分注意する。

衛生面では、食中毒や感染症を拡大させないように次の点に留意した。

○アルコール手指消毒機や薬剤のスプレーによる消毒を実施した。

○調理実習・お菓子作りについて、マニュアルに従って実施し、ノロウイルス胃腸炎他食中毒を防止した。

○手洗い場など施設内全般の消毒を実施、手洗いの啓発を実施

④ グループホームの献立作成を実施する。

グループホームの夕食献立を作成する際には、昼の給食との栄養バランスを取る。

管理栄養士の夕食献立で、グループホームの世話人に買い物と調理をお願いしていたが、業務の都合により、宅配業者による夕食食材を利用することになった。そのため、年度途中で献立作成は中止した。

(2)医療・保健関係

① 利用者・職員の健康診断の実施等

・利用者健康診断の実施

・歯科健診の実施・歯科衛生指導の実施(京都府の事業として、平成27年度は実施対象外となった。平成28年度は未定だが、事業が決定された場合は実施する。)

・血圧・体重測定の実施

・職員の健康診断の実施や各種ワクチン接種の手続き等、健康全般について配慮する。

・健診後やその他、必要な時に嘱託医への相談等を実施する。

○利用者の健診は、協力医療機関である精華町国保病院で9月に実施。もしくは、精華町在住で40歳以上利用者27名の方々には、特定健康診査・がん検診を推奨し受診して頂いた。(木津川市のグループホームの方々には、グループホームで対応)そのため、内容も充実し、費用面でも安く実施できた。【表1】

○歯科健診と歯科指導(フォロー健診)については、平成28年度は京都

府の特別の配慮により、相楽作業所で50名受診可能と連絡があり、心と他事業所も参加した。【表2】

- 利用者の健康管理を目的とした体重（血圧）測定を【表3】の通り実施した。車椅子用体重計を購入した事で、今まで測定できなかった車椅子の利用者の方々も測定可能になった。年間一覧表を家庭に見てもらい適正体重の把握を啓発。利用者自身にも声かけを実施し、少数の利用者には改善が見られた。
- 職員は年1回の健康診断を必須としている。精華町国保病院か協会けんぽの指定病院のどちらかで受診した。なお、女性の乳がん・子宮がん検診を協会けんぽの指定する年度に（2年に1回）実施とした。【表4】
- 職員の深夜従事者検診を実施した。（年2回・延べ8名）

② 感染症の予防に努め、発生時は早期に対処し、感染拡大を防ぐよう努める。
・利用者・職員共にインフルエンザワクチン接種を推進し、施設内流行を防ぐ。

- 感染症予防対策としてB肝ワクチンやインフルエンザワクチン接種を希望する職員に実施した。なお、インフルエンザワクチン接種については、精華町国保病院の医師が施設に来所し、利用者と職員が同時に接種する事ができた。・・・・・・【表5】【表6】
- 年間を通してノロウイルス・インフルエンザ両方の対策として、アルコールと消毒薬を併用した。また、冬期はノロウイルス（感染性胃腸炎）の流行を防止するため、12月から翌3月中旬まで塩素系薬剤を追加使用し、消毒を実施した。
- 利用者の日々の体調管理の実施（体調不良時には早めに気づき、支援するようにした。）
- 研修の実施 『感染症予防・手洗い実技含む』の研修を計画し、利用者と職員に呼びかけ実施した。・・・・・・【表7】

<資料>

【表1：利用者健康診断】※ガン検診も含む

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成28年 6月1・2・ 6・8・9・1 0日 6月1・4・5 日	特定健診(①)・ ガン検診に該当 する利用者(精華 町の40歳以上 の希望する利用 者)	精華町役場 (精華町)	精華町 20人	基本健診(問診・身体計 測・検尿・血圧測定・血 液検査・心電図・診察・ 肺がん・大腸がん・前立 腺がん検診)
平成28年 7月19日	精華町の利用者 (40歳以上の 奇数年生まれの 女性)	学研都市 病院	精華町 3人	乳がん検診(触診・マン モグラフィ)
平成29年 1月26日	同上	精華町役場	精華町 4人	骨密度測定
平成28年 5月11・13 日	木津川市の利用 者(40歳以上)	木津川市保 健センター	木津川市 5人	大腸がん検診 (グループホーム支援)
平成28年 9月 5・9・12・ 15日	①以外の利用者 (ガン検診済み の人は胸部X線 検査以外を受け た)	精華町 国保病院	79人 (別に欠席 者及び通 院中の利 用者7名)	血圧測定、身体測定、血 液検査、尿検査、胸部X 線検査、心電図検査(3 5歳以上)、内科診察
平成28年 9月5・9日	乳がん健診 女 性全員対象で希 望者	精華町 国保病院	31名	

【表2：歯科健診と歯科指導の実施】※相楽作業所で実施

日程	内容	実施人数	実施主体
平成28年 12月6日	相楽作業所・心・エ コクリーン相楽他 の歯科健診	【作・32人】 【心8人】 【エコクリーン	【検診】山城歯科医師 会2名と京都府歯科医 師会歯科衛生士2名
平成29年2月2 日	同上の方々の歯磨 き指導(歯科衛生 士)	他 11人】	【歯科指導】京都府歯 科医師会歯科衛生士2 名

【表 3：体重測定（血圧測定等）の実施状況】

項目	対象者	実施回数	人数
体重測定	全利用者	年間 11 回 作業所・デイセンター	全員 各事業所ごとに測定した
体重・血圧測定	生活習慣病のフォローの必要な利用者	毎週 1 回 (年間 40 回)	11 人 (作業所) (男性 9 人、女性 2 人)

【表 4：職員健診実施状況】※週 30 時間以上勤務の職員対象

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 28 年 9 月 5・9・ 12・15 日	協会けんぽ に該当しな い職員	精華町 国保病 院	23 人 内 1 名 該当	血圧測定、血液検査、尿検査、胸部 X 線検査、心電図検査(35 歳以上)、内 科診察 ※①
年間を通し て予約	協会けんぽ 健診で該当 する職員	指定病 院から 選択	66 人 (内子 宮がん 健診 20 人)	基本健診 (問診・身体計測・検尿・血 圧測定・血液検査・心電図・レントゲ ン・便潜血検査、胃がん健診・診察等) 乳がん検診 (触診・マンモグラフィー) 40 歳以上の女性全員で希望者 (2 年に 1 回) 子宮がん健診…20 歳以上の女性 で希望者 (2 年に 1 回)
9 月 3 月	夜勤従事者 健診	精華町 国保病 院	7 名 9 名	上記の※①と同じ (ただし、心電図検 査は全員) で、年 2 回実施
職員採用時	随時	精華町 国保病 院	6 人	※①と同じ内容+視力・聴力・心電図 検査は年齢関係なしで実施

【表 5 : B 肝ワクチン接種の実施状況】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 28 年 4 月～翌 1 月に実施	希望す る職員	精華町 国保病 院	右の 1 のみ 50 人 2 から 5 ま で通して 9 人 (年間) 抗体検査 平成 29 年 1 月 9 人	1. B 肝抗体検査 4 月 2. ワクチン接種 1 回目、5 月 3. ワクチン接種 2 回目、6 月 4. ワクチン接種 3 回目、平成 28 年 12 月 5. 抗体検査、平成 29 年 1 月 6. 来年度の希望調査実施 3 / 1 ~ 7. H27 年度ワクチン実施で抗体がつか なかった人に 4 回目追加接種 1 名 8. H28 年度 4 回目追加接種 3 名 6 月予定

【表 6 : インフルエンザワクチンの接種】

実施日	対象者	場所	人数	内容
平成 28 年 11 月 17 日 11 月 10 日	希望する職員 希望する利用 者	相楽作業所 相楽ダイセン ター	利用者 59 人 職員 41 人	精華町国保病院の医師が 施設に出張してのインフ ルエンザワクチン接種 (1 回接種)

【表 7 : 研修】あらゆる感染症対策として基本となる、「手洗い方法」を学ぶた
めに実施

○感染症について (3 回)

実施日	対象者	場所	内容
平成 29 年 1 月 23 日～26 日	利用者・職員	相楽ダイセンター 相楽作業所	手洗い方法の実習 (手洗いや 感染症についての DVD 鑑 賞)

※山城南保健所より手洗いチェッカー 2 台を借用し、手洗い実習を行った。

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 相楽地域障害者生活支援センター事業報告（案）

計画に即した評価

1. 基本方針

- (1) 障害のある方の地域における日常生活、社会生活を支援する。
- (2) 相談者の状況や障害特性に応じた適切な情報提供、サービス調整を行が行えるよう関係機関との連携を図る。
- (3) 多岐にわたる相談内容に対応できるよう、相談支援専門員としての資質向上と専門性を高める。

精華町から相談支援事業の委託を受け、精華町在住障害児者への相談対応と行った。

特定相談支援事業、障害児相談支援事業において、サービス等利用計画の作成・モニタリング業務を実施した。

京都府総合相談支援体制整備事業の補助を受け、圏域内の連携を図るとともに山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行った。

2. 事業内容

(1) 精華町障害者相談支援事業の実施

①相談支援事業の実施

- ・地域生活に関する相談への対応、サービス利用の調整を行う。
- ・精華町障害者虐待防止センター機能のうち、通報受理および相談等の受付対応を行う。

平成28年度相談件数・内容等 別紙1（相談件数としては精華町外も含む）虐待防止に関する通報等に関して、支援センターとして相談対応するケースはなかった。

②精華町地域障害者自立支援協議会の運営

- ・協議会全体の活動および専門部会の活動が円滑に進むよう、事務局機能を担う。

精華町地域障害者自立支援協議会活動状況
全体会

開催日	内容	参加人数
3月24日	部会活動報告 山城南圏域障害者自立支援協議会報告 意見交換	11名

専門部会

部会名	内容	開催回数
住民参加部会	精華町防災訓練について	2回
権利擁護部会	権利擁護（成年後見など）に関する検討 先進地見学会の開催	3回 1回
発達支援部会	平成28年度開催されず	

その他・部会合同で研修会を開催した

開催日時	内容	参加者数
12月9日	障害者差別解消法を学ぼう 講師：龍谷大学社会学部現代福祉学科准教授 樽井康彦先生	44名

③障害支援区分認定調査の実施

- ・精華町からの委託により、精華町在住者の認定調査を実施する。

平成28年度件数 5件

(2) 特定相談支援事業・障害児相談支援事業の実施

- ①個々に応じたサービス調整を行い、サービス等利用計画の作成を行う。
- ②モニタリングにおいて、サービス利用が円滑に進んでいるか、サービス内容は適切か、変更の必要性がないかなど確認を行う。

平成28年度サービス等利用計画（特定相談支援事業・障害児相談支援事業）
作成件数 別紙2

- ・特定相談支援事業による障害者のサービス等利用計画作成件数 248件
 - ・障害児相談支援事業による障害児のサービス等利用計画作成件数 56件
- 合計304件（※平成27年度合計248件）

精華町、木津川市、宇治市、奈良市を事業実施地域とした。精華町以外の市町に関しては、原則相楽福祉会利用者へのサービス提供のみとした。

単純計算すると相談支援専門員一人当たり約100名の計画作成を行ったことになる。(平成27年度は一人当たり70～90件)

計画作成に追われ、適切なサービス調整等を行うことができなかった。相談者からのサービス利用の希望のみを聞き、計画作成せざるを得ない状況だった。

モニタリングも、個別面談や事業所訪問をすることがなかなかできず電話で状況確認するのみとなってしまった。行政から決められたモニタリング回数を行うことができなかった。

③計画作成件数の増大に対応できていない状況を改善するため、他事業所への協力を検討していく。

特定相談支援事業所、障害児相談支援事業所の数が山城南圏域内に少なく、他事業所へ依頼することはできなかった。サービス等利用計画の作成業務が手間なことなどから事業所数は増えない現状がある。

(3) 京都府障害者相談支援ネットワーク事業における総合相談支援体制整備事業の実施 (山城南圏域障害者総合相談支援センターの運営)

①ゼネラルケアマネジャー(専門相談員)を配置し、山城南圏域内の相談支援機関、事業所等への指導・助言を行う。

②困難ケースなどの個別支援会議の開催を支援する。

圏域内、圏域近隣事業所への助言等を行った。新規開設事業所に関しては、域の状況について伝え、サービス提供等について助言を行った。困難ケースへの対応方法等助言を行った。

困難ケースの個別支援を依頼される場合があったが、事業としては個別ケース対応はしないことになっているため、各相談支援事業所での対応をお願いした。

③山城南保健所と連携をとり、山城南圏域障害者自立支援協議会の運営を行う。

山城南障害者自立支援協議会活動状況

全体会

開催日	内容	参加者数
3月14日	市町村協議会報告 28年度部会活動報告および29年度計画について	32名

専門部会

部会名	内容	開催回数
精神障害者部会	圏域内当事者、関係機関の交流を目的とした活動の実施	部会 8 回 合同クリスマス会 1 回 ケース検討会 1 回 家族交流会・講演会 1 回
発達支援部会	発達障害者支援ファイル普及について ペアレントトレーニングの普及・啓発について	部会 2 回 研修会 2 回
就労支援部会	就労している障害当事者による当事者向け講演会 障がい者が働く場の見学会	部会 2 回 講演会 2 回 見学会 1 回
事業所連絡部会	圏域内事業所の情報交換 グループガイドヘルプの実施に向けて、 地域生活支援事業（日中一時支援・移動支援）について小部会にて検討。	部会 1 回 小部会 4 回

その他・部会合同で圏域内事業所職員向けに研修会を開催した

開催日時	内容	参加者数
平成 29 年 2 月 18 日	障害者差別解消法について 講師：株式会社ミライロ 原口 淳氏 (全盲障害当事者の方)	37 名

④市町村地域自立支援協議会の活動について、協力・助言を行う。

木津川市自立支援協議会への参加を行った。

<資料>

会議等への参加

日程	会議名	会場	参加
5 / 3	精華町就学指導委員会	精華町役場	1
9 / 2	京都府総合相談支援体制整備事業	京都府庁	1
2 / 8	障がい者の態様に応じた多様な委託訓練	木津川市東部交流会館	1
2 / 24	地域福祉権利擁護事業に係る関係機関・団体等との情報・連絡会議	しんらん交流会館	1
2 / 17	南山城支援学校高等部3年生保護者進路説明会	南山城支援学校	1
2 / 22	南山城支援学校高等部3年総合学習	南山城支援学校	1

平成28年度相談件数

(精華町委託相談・特定計画相談・障害児特定計画相談)

相楽地域障害者生活支援センター

年齢・障害別(実人数)

<18歳未満>

	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	2	2	30	0	25	0	0	1	60
女性	1	0	23	0	9	0	0	1	34
合計	3	2	53	0	34	0	0	2	94

<18歳以上>

	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病等	その他	合計
男性	35	3	96	44	14	8	3	0	203
女性	19	6	66	36	6	1	0	1	135
合計	54	9	162	80	20	9	3	1	338

市町村別相談方法(延人数)

<18歳未満>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市川市	4	0	3	10	0	0	0	0	0	0	17
精華町	19	72	45	79	0	13	44	0	0	0	272
木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	23	72	48	89	0	13	44	0	0	0	289

<18歳以上>

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会	関係機関	文書	FAX	その他	合計
奈良市	2	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5
市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	293	210	91	379	0	28	238	0	0	7	1246
木津川市	69	29	4	61	0	6	11	0	0	2	182
南山城村	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	365	239	96	440	0	36	250	0	0	9	1435

相談内容(延人数)

<18歳未満>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市川市	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
精華町	215	33	3	0	11	3	3	0	0	0	0	4	272
木津川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南山城村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	232	33	3	0	11	3	3	0	0	0	0	4	289

<18歳以上>

	福祉サービ	障害病状理	健康・医療	不安・情緒	保育・教育	家族・人間	家計・経済	生活技術	就労支援	社会参加	権利擁護	その他	合計
奈良市	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
市川市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精華町	599	257	101	47	8	20	30	96	43	5	1	42	1249
木津川市	106	8	14	10	0	2	27	6	1	2	2	6	184
南山城村	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
宇治市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	710	265	116	57	8	22	57	102	44	7	3	49	1440

平成28年度 特定計画相談・障害児特定計画相談件数

相楽地域障害生活支援センター

相談件数(実人数)

	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	合計
障害者	37	7	132	51	14	7	0	248
障害児	2	1	34	0	17	0	2	56
合計	39	8	166	51	31	7	2	304

市町村別件数(実人数)

	精華町	木津川市	奈良市	市川市	合計
障害者	191	56	1	0	248
障害児	55	0	0	1	56
合計	246	56	1	1	304

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 相楽作業所 事業報告(案)

年間を通して、個々の支援計画に基づき「働く」場の提供と合わせて、余暇や文化的活動を実施し、豊かで楽しいプログラムの提供をした。

作業所では高齢化が進んでおり、高齢対応のグループを新たに編成し、ゆったりとした活動の場をもうけた。そのことによって安全面も一定確保できる結果となった。

設備に関しては老朽化も進んでおり、照明設備の修繕及び厨房設備の改修も行った。加齢に伴い、身障用トイレを使用する利用者が増加し、次年度当初に増設を行いたい。

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) 一人ひとりのニーズに基づき個別支援計画を作成し、他機関との連携を深めながら日中支援を行う。

個々のアセスメントに基づき、個別支援計画を作成し、各班で共有して支援を行った。10月にモニタリングを実施し、年度末には年間の支援内容の評価を行った。

(2) 年齢及び障害の状況に合わせた支援を行い、人権に配慮した支援が行われているか、日々意識的に点検していく。

年4回のチェックシートにおいて職員個々の支援内容を見直す機会を作った。日中活動の各班で月1回会議をし、職員相互の確認も行った。しかしながら、後期に入り退職者も出てしまったこともあり、会議が滞ってしまった班もある。今後は年間を通して会議を保証していく必要性を感じる。

(3) 加齢に伴い安心安全な環境を整え、適切なグループ編成を行う。

今年度より、従来の陶芸班を作業中心のA班とゆっくり過ごすB班に再編した。B班では加齢に伴う身体機能低下等に合わせた活動内容に変更した。来年度、身障用トイレの増設を進めたい。

2 事業内容

(1) 引き続き6班に分かれて、生産活動を中心に、個々の年齢や体力の状況に配慮して「生活介護」の事業を実施する。

- ・従来の陶芸班を「生産活動を意識したグループ」と比較的年齢の高い方の「緩やかなプログラムを行うグループ」に再編する。
- ・これまでの作業内容にこだわらず積極的にリサーチを行い、充実した活動内容を模索する。

前記の通り、ゆったり過ごせる班を作ったことによって、のんびり過ごせる場ができたと同時に、動きの大きな利用者と交錯することも少なくなり、安全に過ごせた。

高齢者施設等の見学は実施できず、幅広い内容の活動提供にまでは至らなかった。次年度の大きな課題として残った。

(2) 社会参加や楽しみにつながるプログラム提供を行う

- ・加齢傾向にある利用者に充実したプログラムを提供するため、介護保険事業所等の見学を行う。
- ・継続して絵画や書道など作業以外の楽しみの場を提供する。
- ・一泊旅行や日帰り旅行、外出を小グループで実施する。
- ・クラブや余暇活動の場を設け、経験を広げる取組を行う。

今年度も絵画・パソコン・書道・マッサージ・クラブ等楽しみの場を提供した。

また、一泊旅行・日帰り旅行・班ごとの外出を希望に応じて少人数単位で実施し、非日常的な経験の場を提供した。

介護保険の事業所等の見学は実施できず、今後の課題として残る。

(3) 個別支援計画に基づき支援を行う。

- ・本人のニーズに基づき支援計画を作成し、年度の間で見直しを行う。
- ・支援内容が蓄積されていくよう、年度末に個々の支援マニュアルを更新する。

前期の通り、4月に個々の利用者への聞き取り、5月にサービス計画を立て、10月見直し、3月に評価を行った。利用者の変化に伴い引継ぎ票も部分的に改正をした。次年度、全面見直しをして、普遍化できる部分はマニュアルとして残したい。

(4) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にを行い安定した業務を行う。

- ・職員会議や朝の打ち合わせで意識的に意見交換し、情報共有を行う。

職員会議や朝の打ち合わせにおいて、利用者の日々の変化を共有した。しかしながら、送迎等で参加できない職員に伝達漏れが生じる日があった。日誌に目を通すよう徹底する必要がある。

(5) 安心・安全で快適な環境を整備していく

- ・危険個所の整備と併せて、食堂の壁紙交換等を計画的に実施していく。
- ・緊急事態に備えAEDの設置を行う。

食堂の壁紙を張り替え、照明をLEDに変更するなど環境改善を図っ

た。また、緊急時のためにAEDの設置をした。

<資料>

1 利用者の状況

1) 利用者数

相楽作業所 36名 (男26名・女10名)

2) その他 (平成29年3月31日現在)

- ・平均年齢 約46.9歳
- ・平均在籍年数 約20年9カ月
- ・平均障害支援区分 5.22

2 活動内容

1) 作業グループ構成 ()内はスタッフ数

陶芸A	陶芸B	EM	創作	箱	デイサービス
6名 (4)	5名 (2)	6名 (3)	8名 (5)	8名 (6)	3名 (3)

2) クラブ活動

各クラブは12月までにほぼ月1回平日に実施した。

ボウリング			カラ オケ	散歩 写真	調理		
①	②	③			①	②	③
4名	3名	4名	4名	5名	4名	3名	4名

3) 旅行

今年度は一泊旅行と日帰り旅行を計画・実施した。

○日帰り

高の原イオン (買い物)	嵯峨嵐山 トロッコ	京都鉄道 博物館	天王寺 動物園	京都駅周辺 (グルメ)
2名	2名	2名	2名	2名

○宿泊 (1泊2日)

姫路セント ラルパーク	太秦映画村・ 京都鉄道博物館	三千院・ 清水寺	亀岡温泉・ 嵯峨嵐山	鈴鹿 サーキット
3名	2名	3名	2名	4名

4) 行事等

日 程	行事名・内容	参加利用者数 ()内は スタッフ数	備 考
4 / 1 1 (月)	開所35周年記念写真展示	利用者全員	食堂にて実施
5 / 1 5 (日)	精華町ふれあいまつり	2名(2)	かしのき苑
5 / 3 0 (月)	ツアーオブジャパーン観覧	希望利用者	作業所前
9 / 9 (金)	利用者検診(女性)	9名	精華病院
9 / 1 5 (木)	利用者検診(男性)	19名	精華病院
9 / 1 5 (木) 1 6 (金)	一泊旅行	3名(3)	姫路セントラルパーク
9 / 2 3 (金)	小豆バンド(演奏会)	利用者全員	地域のボランティア
9 / 2 9 (木) 3 0 (金)	一泊旅行	2名(2)	映画村他
1 0 / 3 (月)	日帰り旅行	2名(2)	高の原イオン
1 0 / 7 (金)	日帰り旅行	2名(2)	トロッコ
1 0 / 1 3 (木) 1 4 (金)	一泊旅行	2名(2)	京都観光
1 0 / 1 8 (火)	日帰り旅行	2名(2)	京都鉄道博物館
1 0 / 2 3 (日)	精華町障害児者ふれあいの つどい	17名 (12)	むくのきセン ター
1 1 / 1 7 (木)	インフルエンザ予防接種	23名	所内
1 1 / 2 0 (日)	せいかまつり	自由参加	けいはんな公 園
1 1 / 2 1 (木) ・ 2 2 (金)	一泊旅行	2名(2)	亀岡温泉・嵐山
1 1 / 2 5 (金)	日帰り旅行	2名(2)	天王寺動物園
1 2 / 2 (金)	日帰り旅行	2名(2)	京都駅周辺
1 2 / 6 (火)	歯科検診	利用者全員	所内
1 2 / 8 (木) 9 (金)	一泊旅行	4名(4)	鈴鹿サーキット
1 / 1 3 (金)	新年会	利用者全員	食堂にて実施
3 / 3 1 (金)	お別れ会	利用者全員	食堂にて実施

5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スヌーズレンー各G rで実施
 絵画（毎週水曜日）、書道（第2火曜日の午前）、パソコン（第1金曜日の午後）医療マッサージ（週1回木曜日の午後）3B体操—希望者が参加

※パソコンに関しては今年度で終了

3 研修・出張（主だったもの）

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
4 / 4 (月)	町ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
4 / 14 (木)	法人新任研修	デイセンター	1名
4 / 19 (火)	三重県人権センター研修依頼	人権センター	2名
4 / 24 (日)	町グローバルネット総会	精華町役場	1名
4 / 25 (月)	京都セルフ協総会	ハートピア京都	1名
4 / 28 (木)	法人新任研修	デイセンター	1名
4 / 28 (木)	町ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
5 / 12 (木)	法人新任研修	デイセンター	1名
5 / 20 (金)	町平和祭典委員会	精華町役場	1名
5 / 20 26	初任者研修	京都社会福祉会館	1名
5 / 20 (金)	親の会総会	かしのき苑	1名
5 / 20 (金)	生ごみ堆肥化推進協議会	精華町役場	2名
6 / 9 (木)	法人研修（制度）	相楽作業所	20名
6 / 10 (金)	府集団指導	城陽文化パルク	2名
6 / 18 (土)	法人研修（人権）	かしのき苑	13名
6 / 22 (水)	町人権啓発推進委員会	精華町役場	1名
6 / 24 (金)	町平和祭典委員会	精華町役場	1名
6 / 25 (土)	京都社会福祉士会総会	花園大学	1名
7 / 5 (木)	法人研修（身体）	デイセンター	8名
7 / 5・29	キャリアアップ研修（初級）社協	ハートピア京都	1名
7 / 6 (水)	民間社会福祉施設長研修（府）	キャンパスプラザ	1名
7 / 4・7	強度行動障害支援者養成	京都テルサ	1名
7 / 4・26	強度行動障害支援者養成	京都テルサ	1名
7 / 7 (木)	町ふれあいまつり実行委員会	精華町役場	1名
7 / 13 (水)	精神保健福祉施設協議会	京都府庁	1名

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
7 / 1 5 8 / 9 1 0 / 2 1	キャリアアップ研修 (中級) 社協	京都テルサ	1 名
8 / 2 4 (水)	JIKA 報告会	精華町役場	1 名
8 / 3 (水)	ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
8 / 6 (土)	町平和祭典	精華町役場	1 名
8 / 8・2 4 2 9・9 / 1	相談支援従事者初任研修	京都テルサ	1 名
9 / 2 6 (月)	町せいかまつり実行委員会	精華町役場	1 名
9 / 3 0 (金)	人権啓発推進委員会	精華町役場	1 名
1 0 / 5 (水)	安全運転管理者講習会	アスピーア山城	1 名
1 0 / 1 2 (水)	町ふれあいのつどい実行委員会	かしのき苑	1 名
1 0 / 1 3 (木)	法人研修 (自閉症)	デイセンター	6 名
1 0 / 2 4 (月)	せいかまつり実行委員会	精華町役場	1 名
1 0 / 2 4 (月)	感染症予防講習会	保健所	1 名
1 0 / 2 8 (金)	町精華町自立支援協議会	精華町役場	1 名
1 1 / 7 (月)	保健所研修	保健所	1 名
1 1 / 9 (水)	ほっとハート嵐山	販売調整	1 名
1 1 / 1 1 (金)	自立支援協議会	精華町役場	1 名
1 1 / 2 7 (日)	栄養士研修	京都女子大	1 名
1 1 / 2 8 2 9	有償運送研修	KSプラザ	1 名
1 1 / 2 9 (火)	子育て支援講演会	精華町役場	1 名
1 2 / 9 (金)	自立支援協議会	精華町役場	1 名
1 2 / 9 (金)	法人研修 (精神)	作業所	6 名
1 2 / 1 4 (水)	ふれあいコンサート実行委員会	精華町役場	1 名
1 2 / 1 6 (金)	町自立支援協議会 (施設見学)	花ノ木医療センター	1 名
1 2 / 1 7 (土)	タイムワークサポートセンター クリスマス会	コミュニティー 嵯峨野	1 名
1 / 4 (水)	新春賀詞交歓会 (町商工会)	商工会ホール	1 名
1 / 1 0 (火)	いづみ福社会諮問会議	第一いづみ荘	1 名
1 / 1 8 (水)	ふれあいコンサート実行委員会	けいはんなプラザ	1 名
1 / 2 2 (日)	ふれあいコンサート	けいはんなプラザ	2 名
1 / 2 8 (土)	いづみ福社会研修 (尊厳)	加茂文化センター	1 名
2 / 3 (金)	人権啓発委員会	精華町役場	1 名

日 程	研修名・内容	会 場	参加数
2 / 8 (水)	福祉職場面接会	ハートピア京都	1名
2 / 15 (水)	災害備え説明会 (府)	城陽文化パーク	1名
2 / 16 (木)	町介護事業所選定委員会	精華町役場	1名
2 / 18 (土)	圏域自立支援協議会研修 (差別解消法)	デイセンター	1名
2 / 27 (月)	ふれあいまつり実行委員会	かしのき苑	1名
3 / 4 (日)	趣味の発表会 (南稲町内行事)	南稲会館	1名
3 / 24 (金)	町自立支援協議会全体会議	精華町役場	1名
3 / 29 (水)	町せいかまつり実行委員会	精華町役場	1名

4 見学・実習

① 見学・来訪 (合計57件)

行政関係	4件	施設	5件
学校関係	14件	企業	11件
親の会関係	5件	地域団体	5件
その他	13件		

② 実習 (合計7人)

介護体験2名 社会福祉士3名 中学生体験2名 高校生体験3名
施設体験実習6名

5 所内事故・苦情

内 容		件 数	
事 故 等	服薬ミス	1錠こぼした事に気づかず	1件
		家庭との連携ミス	1件
	車両接触	バック時にフェンスに当たる	1件
		操作ミスで後方側面を擦る	1件
	怪我	自立歩行中転倒	2件
苦 情	班編成について	1件	

6 その他

日 程	内 容	備 考
4 / 16 21	2階作業室間仕切り修繕工事 ベランダ部分スロープ設置	2階
5 / 10 (火)	法人監事監査 (会計)	富田監事
5 / 11 (水)	厨房冷蔵庫修理	厨房
5 / 11 (水)	法人監事監査 (事業)	乗光監事
5 / 14 (土)	所内一部照明をLEDへ交換	食堂・2F作業室他
5 / 18 (水)	理事会	相楽デイセンター
5 / 20 (水)	親の会総会	かしのき苑
6 / 10 (金)	ガスメーター交換 (厨房)	喜多商店
7 / 8 (金)	陶芸ポンプ修理	丸二塗料
8 / 30 (火)	ガスメーター交換 (陶芸)	喜多商店
9 / 11 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
12 / 6 (火)	理事会 (定款変更)	デイセンター
12 / 28 (月)	浄瑠璃寺餅つき	作業所1階
2 / 21 (火)	理事会	デイセンター
3 / 17 (金)	選任・解任委員会	作業所相談室
3 / 23 (木)	理事会	所内
3 / 28 (火)	避難訓練	所内

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 相楽デイセンター事業報告（案）

開所から18年を過ぎ、設備や授産機器の老朽化が見られる。エアコン改修も予算化を行い実施した。今後も計画的に進め、過ごしやすい環境作りに努めたい。

利用者の「人権」に対しては「振り返りシート」や「ヒアリング」等での振り返りを行った。自らの支援を確認していくためにも指摘や問題提起を継続して行っていく必要がある。

利用者のボーナスに関して見直しを行った。工賃についても一部変更を検討していきたい。

「感染」に関しては12月から3月まで検温を実施した。インフルエンザの感染は0であった。平成29年度以降は利用者の年齢が30代以上になるのでより丁寧に体調管理を行っていききたい。

年度末に全職員に「ヒアリング」を実施した。課題や要望、人権に関することなどリアルな声を聞いた。今後も1年に1回は継続していく必要性を感じた。

<計画に即した評価>

1. 日中活動

- ・個別支援計画に基づき、個々に対応したプログラムを実施する。
- ・閉鎖した喫茶のスペースを有効活用する。
- ・販売活動等は業務軽減を基本に検討していく。

個別支援計画に基づきプログラムを実施した。

喫茶スペースの改修を行った。（カウンターを撤去し壁を設置しパン班作業スペースを改修した）今後は他班やプログラムにどう活かしていくのか検討していきたい。

販売活動は必要最小限な販売会等を中心に対応した。パン等は休日に出勤することとなり、また搬入・搬出の職員の確保にも苦労した。

2. 支援の質の向上

- ・「人権」を尊重した支援を行う。
- ・常に自身の支援を検証し、相互指摘できる環境を作る。
- ・OJTを重視し業務を連携していく。
- ・日々の情報共有を行い、チームとして支援できるよう事業所会議、主担当会議、班会議を行う。
- ・介助方法や業務内容を定期的に見直し職員間で共有し、安心・安全な支援を行う。
- ・法人内部および外部研修を活用し、資質の向上に努める。

デイセンター会議は月1回実施した。人権に関しては「振り返りシート」や、ヒアリングの際に必要なことや問題提起を行ったが、振り返りは常に意識していかなければ改善していかない。引き続き行っていきたい。

研修は法人内外の研修に参加した。(施設内研修1回に延べ2名、法人内研修7回に延べ68名、3号研修に2名、有償運送研修に1名、他外部18研修に28名)

3. 事業所機能の充実

- ・「安心・安全の確保」については最重要課題として安全管理に努める。「服薬」や「運転」に関しては事故防止を継続する。
- ・インフルエンザ等の感染症に対して、予防の徹底と感染拡大を防ぐ。
- ・設備・車両等の改修を計画的に実施する。
- ・職務軽減、業務の効率化を継続して検討、実施する。
- ・年2回の防災訓練を計画実施する。
- ・他事業所、行政、関係機関と連携し業務を行う

事故数は昨年比べて減少したが、怪我は微増した。引き続き安心安全を確保していきたい。

インフルエンザ等「感染」予防は、12月より1日2回の検温を実施した。体調不良の利用者に対しては早退等の対応を継続した。今年度はインフルエンザの感染は0であった。早退等に関しては家族の理解を求め感染防止のため継続していきたい。

エアコンの改修を行った。施設全体としては4系統あり、残りの工事も随時予算化して行っていきたい。開所18年目を迎え授産機器の老朽化も見られるので、予算化も含め対応していく。

防災訓練は2回実施した。車いすの方の移動に階段を使い、また職員数が比較的少ない日に行い、現実に対応した状況で実施した。

<資料>

1 利用者の状況 (平成29年3月31日現在)

- ・利用者数 : 45名 (男23名、女22名)
- ・平均年齢 : 約39.78歳
- ・平均在籍年数 : 約19年4か月
- ・平均障害程度区分 : 4.95

2 活動内容

(1) 作業グループ

例年同様の構成で活動した。生産活動グループは、前年度比で売り上げは減少した。

パン・喫茶	紙漉	染織	花工芸	デイサービス
11名(6)	8名(4)	10名(5)	11名(5)	5名(4)

()内はスタッフ

(2) クラブ活動

各クラブ平日に実施。費用は事業所負担とした。

クラブ名	カラオケ			ボウリング	プール
	①	① - ②	②		
参加者数	5名	5名	4名	3名	3名
スタッフ数	2名	3名	2名	1名	3名

クラブ名	プール・温泉	ゆったり	音楽	散歩	調理	
					①	②
参加者数	2名	2名	3名	5名	5名	3名
スタッフ数	2名	2名	2名	4名	3名	2名

(3) 旅行

今年度は日帰り6グループと、宿泊3グループを実施した。

日帰り

旅行名	京都水族館	京都鉄道博物館		嵯峨野トロッコ列車		ニフレル
		①	②	①	②	
参加者数	3名	4名	3名	3名	2名	4名

宿泊

名古屋テレビ塔・水族館	伊勢志摩・スペイン村	大阪・USJ
3名	4名	3名

(4) 行事等

日程	行事名・内容	参加利用者数 ()はスタッフ数	場 所
4/2(土)	木津さくらまつり	26名(19)	木津川市 中央体育館
6/16(木) ~17(金)	宿泊旅行	3名(2)	名古屋
6/27(月)	班別外出(織)	10名(5)	あべのハルカス
7/1(金)	班別外出(紙漉)	8名(5)	チキンラーメン 記念館

日 程	行事名・内容	参加利用者数 () はスタッフ数	場 所
7/4 (月)	木津川台保育所七夕交流会	31名 (18) 園児20名 (4)	デイセンター
9/15 (木) ~16 (金)	宿泊旅行	4名 (3)	伊勢志摩・ スペイン村
9/21 (水)	班別外出 (パン)	8名 (5)	桂川イオン
9/30 (金)	日帰り旅行	3名 (3)	京都鉄道博物館
10/8 (土)	デイセンター交流会	30名 (24) 家族14名	デイセンター
10/11 (火)	班別外出 (デイサービス)	4名 (4)	ならまち
10/14 (金)	日帰り旅行	4名 (3)	京都鉄道博物館
10/24 (火)	日帰り旅行	4名 (4)	ニフレル
11/1 (火) ~2 (水)	宿泊旅行	3名 (3)	大阪・USJ
11/2 (水)	日帰り旅行	2名 (2)	トロッコ列車
11/4 (金)	日帰り旅行	3名 (4)	京都水族館
11/5 (土)	木津川市スポーツ大会	21名 (14)	木津川市体育館
12/3 (土)	京都山城ロータリークラブ 交流会	4名 (1)	いづみホール
12/5 (月)	同志社国際学院キャロリン グ	17名 (8) 生徒59名 教師5名	デイセンター
12/19 (月)	木津川台保育園 クリスマス会	29名 (15) 園児22名 職員15名	デイセンター
12/27 (火)	利用者の会忘年会	27名 (12)	デイセンター
3/9 (木)	班別外出 (花工芸)	10名 (5)	ならまち
3/22 (水)	日帰り旅行	3名 (2)	トロッコ列車

(5) その他

調理、お菓子作り、散歩、カラオケ、スヌーズレン・・・各グループで実施。
 絵画 (週1回)、パソコン (月3回)、音楽プログラム (月2回)、書道 (月
 1回)、医療マッサージ (週1回)

・・・希望者が参加

3 研修・出張

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
4 / 5 (火)	法人内医療的ケア、シリンジ研修、 他 4 / 1 5 (金)	デイセンター	2名
4 / 2 4 (日)	浄瑠璃寺「行者まつり」打合せ、 他 6 / 2 1 (火) 1 2 / 6 (火)	勸修寺	1名
5 / 1 0 (火)	山城南圏域障害者自立支援協議 会、他 8 / 1 (月) 9 (火) 1 1 / 8 (火) 1 2 / 1 2 (月) 2 1 (水) 2 8 (水) 1 / 1 7 (火) 2 / 1 4 (火) 3 / 1 0 (金) 1 4 (火)	山城南保健所	1名
5 / 1 2 (木)	法人内研修「新任」	デイセンター	1名
5 / 1 4 (土)	同志社国際学院きづな祭販売	同志社国際学院	1名
6 / 7 (火)	浄瑠璃寺「行者まつり」販売	浄瑠璃寺	1名
6 / 9 (木)	法人内研修「制度」	デイセンター	17名
6 / 1 0 (金)	障害福祉サービス事業者等集団指 導	京都府	1名
6 / 1 8 (土)	法人内研修「同和」	かしのき苑	9名
6 / 2 2 (水)	喀痰吸引等 3 号研修、他 6 / 2 8 (火)	京都福祉サービ ス協会	2名
6 / 2 8 (火)	マナー研修 (中級)	京都府社協	1名
7 / 4 (月)	強度行動障害支援者養成研修、 他 7 / 2 6 (火)	京都府社協	2名
7 / 5 (火)	法人内研修「身体介護」	デイセンター	15名
7 / 8 (金)	OJT研修 他 9 / 1 (木) のみ 1名 1 1 / 1 8 (金)	京都府社協	2名
7 / 1 5 (金)	キャリアアップ (中級) 研修、 他 8 / 9 (火) 1 0 / 2 1 (金)	京都府社協	1名
7 / 2 2 (金)	キャリアアップ (チームリーダー) 研修、他 7 / 2 8 (木) 9 / 2 3 (金)	京都府社協	1名
7 / 2 6 (火)	食品衛生責任者研修、 他 8 / 3 (水)	山城南保健所	1名
8 / 3 (水)	精華町障害児者ふれあいのつどい 実行委員会、他 8 / 3 1 (水) 9 / 6 (火) 1 0 / 1 2 (水) 1 0 / 2 1 (金) 2 / 2 7 (月)	かしのき苑	1名

日 程	研修名・出張先	主催／行先	参加
9 / 1 (木)	相談支援従事者研修、他 9 / 1 2 (月) 1 3 (火)	京都府社協	1 名
9 / 1 5 (木)	自閉症研修、他 1 0 / 6 (木) 1 0 / 2 7 (木) 1 1 / 2 4 (木)	自閉症 e サービス	1 名
9 / 2 3 (金)	食品衛生責任者研修	京都ほっとはあと	1 名
9 / 2 8 (水)	法人内研修「新任」、他 1 0 / 6 (木)	デイセンター	1 名
1 0 / 5 (水)	安全管理者講習	京都府公安委員会	1 名
1 0 / 1 3 (木)	法人内研修「自閉症」	デイセンター	1 4 名
1 0 / 1 7 (月)	福祉有償運送運転協力者講習会 他 1 0 / 1 8 (火)	移動送迎支援活動情報センター	1 名
1 0 / 2 3 (日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	むくのき苑	1 名
1 0 / 2 4 (月)	強度行動障害支援者養成研修、 他 1 1 / 1 4 (月)	南山城学園	2 名
1 1 / 4 (金)	木津川台保育所研修	木津川台保育所	1 名
1 1 / 1 5 (火)	強度行動障害支援者養成演習、 他 1 1 / 1 6 (水) 1 7 (木)	京都府社協	1 名
1 1 / 1 7 (木)	福祉サービス苦情解決セミナー	京都府社協	1 名
1 2 / 5 (土)	同志社国際学院きづな祭販売	同志社国際学院	1 名
1 2 / 9 (金)	ケース記録の書き方セミナー	京都府社協	1 名
1 2 / 9 (金)	法人内研修「精神障害」	デイセンター	1 1 名
1 / 2 8 (土)	人権研修	加茂文化センター	1 名
1 / 3 0 (月)	強度行動障害支援者養成演習、 他 2 / 1 3 (月) のみ 1 名	南山城学園	2 名
2 / 8 (水)	木津第 2 中学校研修	木津第 2 中学校	1 名
2 / 1 2 (日)	木津川市社会福祉協議会式典	アスピアやましろ	1 名
2 / 1 3 (月)	強度行動障害支援者養成研修、 他 2 / 2 1 (火)	京都府社協	1 名
2 / 1 6 (木)	苦情研修	キャンパスプラザ京都	1 名
2 / 1 8 (土)	障害者差別解消法研修	デイセンター	7 名

4 見学・実習

(1) 見学・来訪 (合計60件)

企業・・・39件

学校関係・・・11件

施設・・・4件

その他・・・6件

(2) 実習 (合計10人)

社会福祉実習・・・4人

保育士実習・・・4人

その他・・・2人

5 所内事故・苦情

前年度比で、総件数は現象した。怪我は増加した。感染症は0だった。

苦情は短期入所に対する内容と、職員の支援方法に対してあった。

内 容		件 数	備 考
事 故 等	車両接触	2件	車両接触
	怪我	7件	転倒、火傷など
	個人情報	1件	保険証受け渡し間違い
	感染症	0件	
	その他	2件	洗濯ミスなど
苦 情	支援について	3件	宿泊や補装具の付け方について

6 その他

日 程	内 容	備 考
4/10 (日)	電圧機改修工事	モリタ電化
5/19 (木)	2階女子トイレ開口部改修工事	吉田建築
6/ 1 (水)	精華町住民健診、 他6/6 (月) 8 (水) 9 (木)	精華町国保病院
6/ 8 (水)	防災訓練、他11/2 (水)	
6/20 (月)	消防点検	ベルテック
7/16 (土)	パン班ドゥーコンディショナー設置	近畿機販
9/ 5 (月)	健康診断 (男性)	精華町国保病院
9/12 (月)	健康診断 (女性)	精華町国保病院
9/20 (火)	台風の為休所	
11/10 (木)	インフルエンザワクチン接種	
12/16 (金)	エブリ (リース) 入替	
1/31 (火)	エアコン室外機修理	

日 程	内 容	備 考
2/21 (火)	職員ヒアリング実施、 他2/22 (水) 23 (木) 24 (金) 3/1 (水)	
3/1 (水)	キャラバン (日本テレビ寄贈) 廃車	
3/3 (金)	エアコン改修工事、他4 (土) 5 (日) 6 (月)	三浦産業
3/4 (土)	元喫茶スペース改修工事、他5 (日) 11 (土) 12 (日) 18 (土) 4/6 (木)	キール
3/12 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティーズ
3/23 (木)	パソコンプログラム終了	

社会福祉法人相楽福祉会

平成28年度 精華地域活動センター「心」事業報告（案）

今年度は年齢を重ねた利用者に対し、他事業所と連携して介護保険の利用に結び付けることができた。ここでは作業を通してのやりがいのある充実した時間、介護保険事業所では余暇的な楽しみや体力維持の時間を持つことができ、より豊かな毎日を過ごせるようになったのではないかと。今後も利用者、ご家族の意向を丁寧に聞き取り、体力や年齢に応じた充実した時間を過ごせるようにしていく。

また新しい販売先の開拓を行い、次年度から新しい場所での販売につなげることができた。ここを知ってもらう機会が増え、地域とのつながりが広がることを期待している。

全体的な収入や支出のバランスについては今後も見直し、効率的な運営をしていくことが課題である。

<計画に即した評価>

1 基本方針

(1) 利用者一人ひとりのニーズに基づいた個別支援計画を作成し、豊かな時間を過ごせるよう日中活動の支援を行う。

各利用者に時間をかけてアセスメントを行った上で個別支援計画を作成し、仕事や楽しみを含めた支援計画を作成した。10月と年度末に見直しを行い、個々の利用者の変化やニーズに応じた支援を行った。

(2) 人権を尊重した支援が行えているのか意識的に見直し、より良い支援を目指す。

日々のミーティングや会議、チェックシートを使って不適切な言葉遣いや支援を行っていないか見直す時間を作った。支援の内容が人権に配慮されたものであるのか振り返ることを大切にしたい。

(3) 地域で活動することを通して住民の方々との交流を積極的に深める。

地域の方からの販売や注文、喫茶開店の依頼には可能な限り対応し、積極的に交流を深めることができた。

2 事業内容

(1) (クリエイティブスペース) ていすとと一体的に生活介護事業を運営する。

各事業所において喫茶やパン販売、革作業や下請け作業を行い、一体的に事業を運営することができた。

(2) 人権を尊重し、個別支援計画に基づいた支援を行う。

- ・利用者の思いを丁寧に聞き取り、ニーズに沿った支援を行う。
- ・支援内容について年度の間で見直しを行うとともに、日々ニーズに沿っているのか検討する。
- ・職員間で相互指摘し、人権に配慮した支援ができているのか常に意識する。

毎日のミーティングの時間や月1回の会議で各利用者の状況や支援内容について話し合い、日々変化するニーズに対応した。会議やチェックシートを使い人権に配慮した支援ができているのか振り返る時間を設け、自分の支援を見直すことを大切にした。

(3) 喫茶こころの運営。

- ・「喫茶こころ」の運営を通して地域の方々と交流を深める。
- ・地域の行事やイベントに積極的に参加する。
- ・作業収入と支出のバランスを見直し、収入の安定を図る。
- ・年齢や体力、障害の状況に応じた作業を設定する。

地域の方からの依頼で休日に喫茶を臨時開店し、いつもは来店されない方に利用してもらうことができた。毎年参加しているイベントでの販売ではパンの購入を楽しみにされている方も多く、利用者にとっても直接住民の方々との交流できる良い機会になっている。

売上が少なく年度末で終了することになった販売先もあったが、次年度に向けて新たな販路を開拓することができた。

意欲をもって作業ができるよう各利用者の体力や可能性に応じて作業の検討を行った。新しい作業への挑戦や作業内容が向上するようにアプローチしたことで自信につなげることができた。

(4) 安心、安全な環境を整える。

- ・作業環境を見直し、安心安全に作業ができる環境を整える。
- ・加齢に伴う課題について他事業所と情報を共有し取り組む。

利用者が休憩や作業で使用する控室にエアコンを設置し、快適な環境を作ることができた。また、スペースが狭い中でもスムーズに動けるように厨房や喫茶の整理や片付けを行った。

加齢に伴う課題については他事業所と協力し、介護保険事業所の利用につなげることができた。

(5) 職員間の情報共有、連絡、連携を確実にし安定した業務を行う。

- ・ミーティングの時間を活用し、情報の共有や積極的な意見交換を行う。
- ・スムーズに業務が進むよう業務整理を行い、役割分担を明確にする。
- ・外部や内部研修に積極的に参加し、資質向上に努める。

毎日のミーティングや月1回の会議で情報の共有や意見交換を行った。また状況に応じて日中活動中に報告や相談を行い、臨機応変に支援を行う

ことができた。グループホームの利用者が多く、必要に応じてグループホーム職員や看護師と連携して支援した。

研修については体制的に参加しにくい状況であったが、支援の質を上げるためにできる限り参加した。

<資料>

1 利用者の状況（平成29年3月31日現在）

- ・利用者数 9名（男2名・女7名）
- ・平均年齢 約47.6歳
- ・平均障害程度区分 約4.3

2 活動内容

・喫茶こころ

毎週火曜日～土曜日に営業（第1土曜日、祝日は休業）

4月、5月、11月にかしのき苑、または地域の行事に伴い臨時開所（翌火曜日に代休）

・配達

平均 14.5回/月

- 配達先
- ・精華町役場職員
 - ・地域の小学校（学童保育）
 - ・地域の保育所職員 など

・販売

日程	販売先	備考
毎月1回	南山城支援学校	
毎月1回	精華町庁舎販売	
毎月2回	発達支援センターすてっぷ	
毎土曜日	J A精華町農産物直売所 （J A祝園・J A山田荘）	J Aへ委託
4/3(日)	カラオケ大会	臨時開所 地域の方の依頼により開所
5/15(日)	ふれあいまつり	臨時開所 利用者7名・職員4名参加
5/30(月)	ツアーオブジャパン京都	職員2名参加
6/18(土)	文化フェスティバル	利用者3名・職員1名参加
6/19(日)	文化フェスティバル	職員2名参加
7/9(土)	ひかりだい保育所夏祭り	利用者6名・職員3名参加
7/26(火)	夏季地域学校	注文

日 程	販売先	備 考
8 / 20(土)	精華台一丁目夏祭り	利用者6名・職員3名参加
8 / 20(土)	光台実行委員会・光台夏祭り	注文
10 / 15(土)	こどもまつり	利用者3名・職員2名参加
10 / 22(土)	福社会館まつり	利用者2名・職員1名参加
10 / 23(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	注文（職員2名参加）
11 / 6(日)	せいかマラソン	職員2名参加
11 / 20(日)	せいか祭り	臨時開所 利用者7名・職員3名参加
12 / 4(日)	チャリティーフェスティバル	職員2名参加
1 / 13(金)	シルバー人材センター 新年会	利用者2名・職員1名参加
2 / 3(金)	精華町人権シネマサロン	利用者3名・職員1名参加
2 / 4(土)	精華町人権シネマサロン	利用者3名・職員1名参加
2 / 5(日)	鹿背山婦人会	注文
2 / 12(日)	相楽の文化を創るつどい	職員2名参加
3 / 5(日)	ドッジビー競技大会	職員2名参加

・その他

パソコン（毎火曜日）、作業所パソコンプログラム（第1金曜日）

絵画（毎水曜日、作業所のプログラムに参加）、

ししゅう（毎木曜日）

ウォーキング・カラオケ・調理・外食など（第1土曜日）

体重測定（月1回）、医療マッサージ（毎木曜日）、健康診断

3 ボランティア活動

日 程	ボランティアグループ	利用者数
第3水曜日	収集ボランティアさくらの会	1名
第3木曜日	古布裁断ボランティアこっとな	1名

4 行事等

日 程	行事名・内容	利用者数（職員数）
4 / 2(土)	花見（けいはんな記念公園）	7名（3名）
6 / 1(水)	精華町特定健診（女性）	2名
6 / 2(木)	精華町特定健診（男性）	2名
8 / 6(土)	調理	7名（3名）
9 / 9(金)	健診（女性）	4名（1名）

日程	行事名・内容	利用者数（職員数）
10/7(金)	日帰り旅行（ミシガンクルーズ）	8名（3名）
10/23(日)	精華町障害児者ふれあいのつどい	3名（1名）
11/17(木)	インフルエンザ予防接種	5名（2名）
11/20(日)	せいか祭り	7名（3名）
12/6(金)	歯科検診	8名
1/4(水)	新年会（調理）	8名（3名）
1/5(木)	初詣	8名（3名）
2/2(木)	歯科指導	8名

5 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加数
6/9(木)	法人内研修 （「差別解消法」「権利条約」について）	作業所	4名
6/10(金)	障害福祉サービス事業者集団指導	文化パルク城陽	1名
6/18(土)	法人内研修（「同和問題」を考える）	かしのき苑	1名
7/5(火)	法人内研修 （「身体障がい者の介護」について）	デイセンター	1名
9/28(水)	かしのき苑大ホール改修等工事に係る 停電説明会	かしのき苑	1名
10/6(木)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名
10/13(木)	法人内研修 （自閉症 ^h ・ ^h 外 ^h の人達の理解と支援）	作業所	1名
12/9(金)	法人内研修（「精神障害者の理解」について）	デイセンター	2名
2/1(水)	みんなの販売マナー講座	東部交流会館	利用者3名 職員1名
2/13(月) 2/21(火)	京都府強度行動障害支援者養成研修 （基礎研修）	京都テルサ	1名
3/22(水)	ボランティアセンター運営委員会	かしのき苑	1名

6 所内事故・苦情

内 容		件数
事故等		0件
苦情		0件

今年度は事故、苦情ともなかったが、今後も安全意識の向上を図っていく。

7 その他

日 程	内 容
6 / 2 5 (土)	喫茶こころ害虫駆除
9 / 6 (火)	大雨の為一部利用者個別送迎
9 / 2 9 (木)	大雨の為一部利用者個別送迎
9 / 2 0 (火)	警報 (台風接近) の為臨時休所
9 / 2 0 (火)	台風接近に伴い山田荘小配達中止
1 0 / 1 (土)	喫茶控室エアコン設置
1 0 / 1 7 (月)	喫茶ワックスがけ
1 2 / 1 0 (土) ～ 1 2 / 1 7 (土)	かしのき苑休館 (日中活動場所…相楽デイセンター・相楽作業所・サービスセンター相楽)
1 2 / 2 8 (水)	喫茶こころ害虫駆除
2 / 6 (月)	喫茶ワックスがけ
3 / 1 1 (土)	J A山田荘販売終了

社会福祉法人相楽福祉会

平成28年度（クリエイティブスペース）ていすと事業報告（案）

今年度は4月より新しい利用者の受け入れを行った。また年度途中で職員の退職があり、スムーズな引き継ぎが行えるよう苦慮した一年だった。

日中活動ではこれまでどおり革作業と下請け作業を作業の柱とし、作業活動を中心にした事業運営を行った。SNSや委託店舗を通じて革作業では製品の注文数が増え、また下請け作業でも安定した仕事が提供でき売上アップに繋がった。年度途中には、念願であった利用者工賃を上げる事もできた。反面、材料費が増大し、安価での作業資材の購入や整理が今後の課題となってきた。

〈計画に即した評価〉

基本方針

- 1 小規模事業所としての良さを生かして、利用者一人ひとりのニーズに基づき「個性」を大切にした視点で支援をする。

5月に個別支援計画を作成、10月に見直しを行った。支援計画をもとに日々の反省会の中で作業内容の検討や日中の過ごし方を話し合った。

またていすと会議を実施し、事業所の目指す方向性の確認や、利用者への対応、言葉遣いに対して話しあう機会を設けた。

- 2 作業活動を通して、経験と出会いを大切に、地域とのより広い関係の構築を目指す。

作業を中心にした事業所作りを行った。個々の利用者が作業しやすいよう補助具を用意したり、作業中の約束事なども確認し合った。現在8店舗ある委託店への納品も頻繁に行った。

- 3 利用者の人権を尊重し、安心・安全な活動環境を整える

障害の重度化、高齢化が課題となる中、日々の活動の中でいかに安全に過ごすかを話し合い、レクリエーションの見直しや日中活動内のヒヤリハット事例を話し合った。幸い大きな怪我や事故もなく一年を終えることができた。また利用者への言葉がけや対応など、より人権に配慮した支援がなされているのか話し合う場をもった。

2 事業内容

(1) 精華地域活動センター「心」と一体的に生活介護事業を運営する。

直接の交流はなかったが、パン製造と革作業/下請け作業と各々の事業所で生活介護事業を展開した。革製品の委託店のひとつとして納品を行った。

(2) 日中活動において、利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき支援する。

- ・個別支援計画の定期的な見直しを行い、細やかな意見の聞き取りと、より充実した支援を行う。
- ・毎日のケース検討により、支援の経過や課題等をスタッフ間で共有する。

5月に個別支援計画の作成、10月に見直し、3月に支援計画の総括を行った。アセスメントや支援計画を元に、毎日の反省会においてスタッフ間で話し合い、支援の方向性を検討した。また利用者の持つ課題によっては、他事業所も交えてのケース会議を開催した。

(3) 作業活動を主体に、工賃アップに繋がるような作業を提供し、日中活動の充実を図る。

- ・質の高い革製品づくりを行い、販路を広げる。
- ・下請け作業に継続して取り組む。

革製品についてはスタッフ・利用者共に技術が上がり、委託販売店舗も8店舗に増えた。また下請け作業も途切れなく提供する事ができ安定した収入に繋がった。年度途中にはわずかながら利用者工賃を上げる事ができた。

SNSや委託店舗を通じて注文が増えた半面、作業に追われる事が多くなりまた材料費が大幅に増えた。注文数、売上げが増えたにも関わらず、思ったよりも利益が上がらず、価格の設定や材料の見直しが今後の課題となった。

〈資料〉

1 利用者の状況

男性 5名 女性 4名 合計 9名（職員3名）

平均障害支援区分 4, 4

平均年齢 44.2歳

2 日中活動内容

(1) 革作業

革製品の製作。（財布、キーケース など）

木津川市、奈良市等の委託店舗で販売。

(2) 下請け作業（新栄工業）

「ノンリーク金具（ウレタンシール貼り）」 「紙管（筒入れ）」

「からみ（輪っか）」の各種作業を実施した。

(3) 委託店舗先 訪問（納品）

店舗によるが1～3ヶ月毎に、製品の入れ替えを行った。

(4) タグ制作

牛乳パックを再利用して法人内で使う値札作りを担当した。

(5) 名刺制作

法人職員の名刺制作を請け負った。

(6) その他

カラオケ（3ヶ月に1回）、絵画（作業所プログラム毎週）、

木津育栄会とのお菓子づくり（年2回）、

体重測定（月1回）、入浴支援（一部利用者に週1回）

3 行事関係

日時	内容	場所
4月11日	花見	けいはんな公園
5月24日	カラオケ外出	かしのき苑
7月 8日	ボーリング外出	京田辺
8月19日	カラオケ外出	レインボー
8月24日	木津育栄会お菓子作り	木津保健センター
9月 6日	避難訓練	所内
10月 3日	支援学校 学校祭	南山城支援学校
10月21日	日帰り外出	海遊館

日 時	内 容	場 所
1 1 月 1 日	カラオケ外出	かしのき苑
1 1 月 1 5、2 4 日	外食	Cocoraku
1 月 2 5 日	木津育栄会お菓子作り	木津保健センター
1 月 2 7 日	新年会(カラオケ)	レインボー
2 月 2 1 日	避難訓練	所内
3 月 2 4 日	お疲れ様会	庵樹

年度当初に作成した年間予定に沿ってほぼ問題なく実施できた。ボーリングやカラオケ、新年会など利用者からの要望により実施。行事によってはマンネリの傾向もあったが、概ね楽しめた様子。昨年行った革製品の展示会はスタッフの入れ替えもあり、実施できなかった。また外出時にヒヤリハットが多く起きる傾向があるので、今後でも対応を話し合っていきたい。

4 事故、苦情

内 容	件数
事故	0 件
苦情	1 件

主だった事故や苦情はなかったが、利用者の外出時でのヒヤリハットなどいくつか事故に繋がりがねない事例があった。

革作業において外部からの注文が、寸法違いにより作り直す事があった。また他のお客様からも注文内容や納期についての質問などが増えてきている。これも将来的には苦情に発展しかねないので、早めに対応マニュアルなどを作成したい。

5 見学、実習 受け入れ

日 時	内 容
7 月 1 5 日	支援学校保護者 見学
1 1 月 2 日 3 0 日	支援学校実習生受け入れ(2名)
1 2 月 1 9 日	利用希望者 見学
2 月 1 3 日	利用希望者 見学

定員に一名空きがある為、地域からの利用希望者の見学や、卒業を見据えて支援学校からの見学、在校生の職場実習があった。

環境(バリアフリー)や送迎の関係で、契約には至らなかったが引き続き新規利用者の受け入れに努めていきたい。

6 その他

・ 会議、研修等

日時	内 容
6月9日	法人内研修(差別解消法)
6月10日	京都府集団指導
7月5日	法人内研修(身体介助)
8月22日 23日	運転講習
10月13日	施設内研修(自閉症)
12月9日	施設内研修(精神障害)
2月15日	命を守るための要配慮者利用施設管理者説明会

法人内や施設内で設定された研修には参加したが、他施設への見学や外部の研修に参加する機会は少なかった。来年度や授産作業に対しての研修も含め、積極的に外部研修を受講していきたい。

- ・ 避難(防災)訓練 2回実施
- 利用者健診(内科) 1回実施

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 エコ・クリーン相楽事業報告（案）

清掃作業において年間を通して計画的に作業設定を行い、行政との業務委託契約については滞ることなく履行する事ができた。夏季の除草作業についても悪天候のためやや遅延傾向であったが事故もなく終えることができた。しかし収入増に繋がる取り組みはできておらず、今後の利用者増を進めるうえで必要であるため継続して検討していきたい。

作業面で利用者と内容について話し合いを行い、効率化のための作業方法の変更、道具の整備等を行い実施した。年度末には再度振り返りの機会をもち、作業内容の再確認、そしてさらなる改善点等を出し合い次年度に繋げていくことを確認した。

昨年度は個別により支援が必要なケースが多々あり、ご本人の本当のニーズについて、また生活面の不安に対し事業所としてどうサポートができるかを考えさせられた一年であった。今後小規模作業所の合築も控えており、スムーズに業務移行できるよう準備を進めていくとともに、利用者には小規模の良さを活かした支援を行い利用者が安定して事業所に通所し、やりがいを持って作業に取り組んでもらえるよう関係機関と連携しながら支援していきたい。

<計画に即した評価>

1. 基本方針

- (1) 法令を遵守し、利用者、家族、地域から信頼を得る施設運営を行う。
- (2) 利用者の人権が尊重され、自己実現に向けて主体的に過ごすことができるよう支援を行う。
- (3) 「ともに働く」なかでも個別化したニーズの掘り起こしとそのニーズに応える支援を行う。

利用者一人ひとりのアセスメントに基づき支援計画を作成し支援を行った。不定期ではあったが個別面談の場を設けニーズの確認・調整や健康状態の把握等を行い日々の支援を速やかに反映できるよう努めた。作業において車両移動の際には安全運転に努め、清掃業務を行ううえで道具の改善や作業方法の工夫等を行い地域の方に気持ちよく使って頂ける公園管理を心掛けた。草刈り機等の機器を使用の際には利用者及び地域の方の安全を重視し支援にあたった。

- (4) 事業所合築に向けて検討を行う。

昨年度当初の候補地が具体化できなかったため、検討ができなかった。

2. 事業内容

(1) 日中活動

- ・地域の公園や社会教育施設の清掃を主な作業内容とし「生活介護」「就労継続支援 B 型」事業を実施する。
- ・安全かつ円滑に作業が遂行できるよう、日中プログラムを計画的に実施する。

利用者が安全に作業を行えるよう日々作業設定への配慮を行い、日中プログラムを計画的に実施した。業務委託作業については、夏期の草刈り作業が悪天候のため遅延気味ではあったが、事故等もなく契約内容通り履行できた。

- ・作業内容については、利用者一人ひとりの状況等に考慮して設定する。

利用者のその日の体調に合わせて、作業設定や内容の配慮を行った。夏期に作業中に体調不良の訴えがあり、午後から休んでもらうというケースがあった。

- ・収入増、また利用者の高齢化を視野に入れ、新たな作業開拓の可能性を探る。

軽作業など新規作業を検討したが具体的な取り組みはできなかった。地域の方から単発での作業依頼等には対応した。今後、利用者の体力面の変化や作業に対する意欲を考慮し手立てを考える必要性を感じる。

- ・利用者同士で話し合う機会等を積極的に作り、主体性を伸ばしていけるよう支援を行う。

年度末に作業内容について全員での話し合う機会を設け、作業方法の統一、調整を行い作業意欲の向上や効率化への取り組みを行った。

- ・行事や休日レクリエーションについては、利用者とともに計画し実施する。

行事やレクリエーションの企画については、日中活動の時間内において話し合いの機会をもち決定した。旅行については2グループに分かれ、それぞれ別の日に設定し実施した。旅行期間中の作業はもう一方のグループが行った。

(2) 支援の質の向上

- ・利用者のニーズに基づき個別支援計画を作成し、中間評価を行いながら支援する。

利用者からの聞き取りに基づき個別支援計画を作成し、会議の場で検討を行い職員間で共有した。中間時期には計画の見直しを行い、年度末には年間計画の評価を行い次年度に繋げるよう努めた。

- ・定期的に利用者へのモニタリングを行い支援内容の充実を図る。
- ・会議等で日々の利用者の状況を職員間で共有し、支援内容の振り返りや支援方法の調整を図り人権が守られた支援を行う。

個別面談の機会は不定期となってしまったが実施した。利用者の状況をするとともに速やかに支援内容に反映するよう努めた。日々の反省会で利用者の現状把握、支援内容の振り返りを行い職員間で共有した。

- ・研修会への参加や勉強会の実施など職員の資質向上に努める。

それぞれの職員が対象の法人内研修には参加できたが、外部研修への積極的な参加は行えなかった。

(3) 事業所機能の充実

- ・安心・安全な環境の確保に努め、職員の安全管理に関する意識を高めるとともに、施設内外の安全について常時点検や改善を行っていく。
- ・快適で機能的な作業環境となるよう、施設整備や雰囲気作りに努める。

日々の作業において、移動の際の車両運転を含め安全には留意し作業を行った。夏期の草刈り作業において、作業後に毛虫による被害で湿疹がでた利用者が1名いた。機器のメンテナンス、補修、修理依頼などを作業に支障がないよう適宜実施した。

- ・事業所合築後もスムーズに作業が実施できるように、利用者とともに準備を進めていく。

事務所とは別で借用している倉庫内の清掃を少しずつ始めた。候補地が具体化できなかったためそれ以外の準備は進めることができなかった。

- ・法人内での連絡と報告を徹底し、連携した施設運営を行う。

日々法人内各事業所と連携し、特別な事項がある場合には報告・連絡・相談を行うよう努めた。

<資料>

1. 利用者の状況（平成29年3月時）

(1) 利用者数 9名

生活介護 7名（男性7名） ※平均障害程度区分：4.0
就労継続支援B型 2名（男性2名）

(2) 平均年齢 49歳

2. 活動内容

(1) 作業

- ・精華町（建設課） 山田川駅前交通広場等維持管理業務委託

場 所	内 容
山田川駅前交通広場	ごみ袋入替（8月まで） 散水 等 ごみ拾い 除草
祝園駅西側公衆便所	トイレ清掃 散水 等 ごみ拾い
鳥谷公園	トイレ清掃 散水 等 ごみ拾い
池谷公園	トイレ清掃 散水 等 ごみ拾い
畑の前公園遺跡の杜	トイレ清掃 散水 等 ごみ拾い

- ・精華町（建設課） 池谷公園他除草業務委託

場 所	内 容
鳥谷公園	除草 塵埃収集 処分 等
池谷公園	除草 塵埃収集 処分 等

・精華町（体育協会）維持管理業務

場 所	内 容
打越台グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い グラウンド管理棟清掃 グラウンドベンチ清掃 等

・木津川市（教育委員会）社会体育施設清掃等委託業務

場 所	内 容
兜谷グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
木津グラウンド周辺	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 整地 等
木津川台グラウンド	ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
梅美台テニスコート	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
赤田川グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 剪定 整地 等
加茂体育館	トイレ清掃 除草 等
加茂グラウンド	トイレ清掃 ごみ拾い 除草 等
山城コミュニティ 運動広場	トイレ清掃 ごみ拾い 等
木津川市中央体育館	除草
城址公園	（社会体育係業務委託）トイレ清掃 ごみ拾い 等
	（文化財保護室業務委託）トイレ清掃 ごみ拾い 等

- ・ 相楽福社会 ゴミ回収・生ゴミ回収（7～10月） 除草 等
- ・ 精華町障害児者育成会 古紙回収
- ・ リサイクル業務（空き缶回収）
- ・ 倉庫清掃
- ・ 廃油石鹼作り
- ・ 地域の方へ落ち葉運搬

(2) レクリエーション

日 程	内 容	参加利用者数 (スタッフ数)	備 考
4 / 8 (金)	花見	8名 (3名)	鳥谷公園
5 / 28 (土)	あべのハルカス・通天閣	7名 (3名)	
6 / 25 (土)	ボウリングとカラオケ	6名 (2名)	新田辺駅
7 / 23 (土)	なら健康ランド	6名 (3名)	
8 / 28 (日)	ボウリングとカラオケ	6名 (2名)	新田辺駅
9 / 25 (日)	京都鉄道博物館	8名 (2名)	
10 / 30 (日)	サッカー観戦	6名 (2名)	西京極競技場
12 / 17 (土)	ボウリングとカラオケ	6名 (2名)	新田辺駅
1 / 13 (金)	新年会	8名 (3名)	
2 / 11 (土)	芸術鑑賞 (共生の芸術祭)	8名 (3名)	けいはんなプラザ
3 / 25 (土)	京都市動物園	8名 (2名)	

(3) 行事・利用者研修等

日 程	内 容	参加利用者数 (スタッフ数)	備 考
6 / 8 (水)	精華町特定健診	3名	精華町役場
9 / 9 (金) 15 (木) 26 (月)	利用者健診	6名 (1名)	精華病院
11 / 4 (金) 1 0 (木) 17 (木)	インフルエンザ予防接種	4名 (3名)	
11 / 9 (水) ~ 11 (金)	東京旅行	3名 (2名)	
11 / 16 (水) ~ 18 (金)	伊勢・志摩旅行	4名 (2名)	
11 / 25 (金)	働く場の集い	1名 (1名)	木津川市東部 交流会館
12 / 9 (金)	障害者差別解消法を学ぼう	3名 (1名)	精華町役場
12 / 28 (水)	相楽作業所餅つき手伝い	8名 (3名)	浄瑠璃寺

日 程	内 容	参加利用者数 (スタッフ数)	備 考
1 / 2 4 (火)	障がい者が働く場の見学会	2名 (1名)	ウェルシア薬局株式会社
2 / 1 7 (金)	京都市防災センター見学体験	8名 (3名)	
2 / 2 3 (木)	働く場の集い part 2	1名 (1名)	木津川市東部交流会館

3. 職員研修・出張

日 程	内 容	会 場	参加者数
4 / 1 4 (木) 2 8 (木) 5 / 1 2 (木)	法人内新任研修	相楽作業所 相楽デイセンター	1名
6 / 9 (木)	法人内研修「障害者差別解消法」	相楽作業所	2名
6 / 1 0 (金)	集団指導	文化パーク城陽	1名
6 / 1 8 (土)	法人内研修「同和問題について」	かしのき苑	2名
7 / 4 (月) 2 6 (火)	強度行動障害支援者養成研修	京都テルサ	1名
7 / 5 (金)	法人内研修「身体障害者の介助」	相楽デイセンター	2名
1 0 / 5 (水)	自立支援協議会就労支援部会	山城南保健所	1名
1 0 / 1 7 (月) ~ 1 9 (水)	強度行動障害支援者養成研修～実践研修	京都テルサ	1名
1 2 / 9 (金)	法人内研修「精神障害者の理解」	相楽作業所	3名

4. 所内事故・苦情

内 容			件数
事故等	怪我	毛虫による被害	1

5. その他

日 程	内 容	備 考
11 / 25 (月) ~ 29 (金)	南山城支援学校生 実習受け入れ	1名 4日間
3 / 28 (火)	避難訓練	全員

社会福祉法人相楽福祉会
平成28年度 サービスセンター相楽事業報告（案）

当年度は、1～3月に緊急による中長期の短期入所の利用が2件あり、他事業所職員の協力を得ながら対応した。その他のニーズに対しては、行動援護、移動支援のサービス提供も含めて他事業所職員の協力を得つつ可能な限り対応した。他法人のサービス紹介も含めてニーズに合った支援ができるよう引き続き調整が必要である。通院等介助は毎月平均して90件程度利用があり、同じ日に利用が集中しないよう可能な限り調整した。

平成29年度より、一時支援・移動支援の単価の見直しが行われるため、行政との折衝を行ったが、同一法人内で生活介護の前後に利用した場合の単価が大幅に下がった。引き続き市町村と協議を続ける必要がある。

安全対策等については、補助金を活用して、介護用ベッドのキャスター交換、老朽化していたダイニングチェア、レースカーテン、テレビの買い替えを行った。今後も事故を未然に防ぐためにも、危険個所への迅速な対応と老朽化した設備に対して計画的に修繕を行っていく必要がある。

当年度も人権に配慮した支援ができているか、支援の内容が成人に合ったものかを意識的に振り返りを行った。支援の質の向上や人権意識を高めると共に、互いに指摘し合える環境作りを継続して行う。

<計画に即した評価>

1. 各種サービス

- ・個々の利用者にあったサービス内容を検討、見直しをしていく。
- ・スタッフ確保に努め少しでも多くのニーズに対応できるよう努力する。

サービス内容については、必要に応じて通所施設職員や家族と相談しながら検討、見直しを行った。

当年度も相楽作業所、相楽デイセンターの各施設長を交えてサービス調整会議を毎月実施し、緊急性が高いケースの情報共有や効率的な人員配置の調整を行った。夜間・休日のサービスニーズに対応していくために、アルバイトスタッフの募集を継続する必要がある。

2. 支援の質の向上

- ・スタッフ間の情報の共有を確実にし、個々の利用者に応じた支援を行う。

他事業所と連携して情報を共有し、業務日誌等を用い服薬、安全の確保ができるよう配置スタッフへの引継ぎを行った。

・法人内部および外部研修に参加し、支援の向上に努める。

職員体制上の困難さから研修参加機会が少なかったが、今後は研修参加を計画的に行い、報告や話し合う場を設けることで支援の質を上げることが重要である。

・支援内容の質的向上を目指す。

日々の支援の中で気付いたことはその都度話し合い、支援内容の改善と共通理解を深めることができた。

3. 事業所機能の充実

・関係機関、他事業所との連絡を密に行い情報の共有と連携をはかる。

必要に応じて関係機関、他事業所との連携をはかることができた。

・年2回の防災訓練を計画的に実施する。

・感染症予防に努める。

防災訓練は、1回目と2回目との間隔が短くなってしまったため、計画的に実施する必要がある。感染症については、消毒薬、ペーパータオル、ゴム手袋等を使用することで蔓延を防ぐことができた。

<資料>

1 利用者の状況（登録利用者数）

◎相楽福祉会通所利用者 1 1 1 名

◎上記以外 6 名

2 事業内容

- ① 居宅介護（身体介護・家事援助・通院等介助）
- ② 行動援護
- ③ 重度訪問介護（平成28年11月1日から再開）
- ④ 短期入所
- ⑤ 日中一時支援
- ⑥ 移動支援
- ⑦ 福祉有償運送

《参考》 平成29年2月サービス提供の状況

サービス内容	件数
居宅介護（身体介護・家事援助）	55
居宅介護（通院等介助）	84
短期入所	68
行動援護	36
移動支援	45
日中一時支援	153
福祉有償運送（移送サービス）	178

※短期入所…1泊2日を2件とカウント

※行動援護…内33件はグループホーム利用者

※移動支援…内35件はグループホーム利用者

3 研修・出張

日程	研修名・内容	会場	参加
4/22（金）	下校時配車説明会	南山城支援学校	1名
6/9（木）	法人研修 「差別解消法」「権利条約」	相楽作業所	2名
6/10（金）	京都府集団指導	文化パーク城陽	1名
6/18（土）	法人研修 「同和問題」	かしのき苑	1名
7/4（月） 26（火）	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	京都テルサ	1名
7/5（火）	法人研修 「身体障害者の介護」	相楽デイセンター	1名
11/15（火） ～17（木）	強度行動障害支援者養成研修（実践）	京都テルサ	1名
12/15（木）	自立支援協議会 第2回居宅支援部会	木津川市役所	1名
12/21（水）	一時支援・移動支援単価見直し会議	精華町役場	1名
1/17（火）	一時支援・移動支援単価見直し会議	精華町役場	1名
2/10（金）	一時支援・移動支援の見直しにかかる事業所説明会	精華町役場	1名
2/23（木）	福祉有償運送運営協議会	精華町役場	1名

4 事故・苦情

内 容		件 数
事故	服薬ミス	0
	怪我	2
	車両事故	0
	感染症	0
苦情	サービス利用について	0

服薬ミスについては、服薬後の確認をスタッフ間で徹底することで、防ぐことができた。怪我は、短期入所利用中、昼食購入のため徒歩移動中に、バランスを崩し、地面に倒れ左膝に擦過傷を負う。もう1件は、一時支援で入浴後、靴下を履く介助中に、爪水虫になっていた左足小指の爪をひっかけて取れてしまい多量に出血する。

5 その他

日程	内容	備考
4 / 10 (日)	キューティクル交換工事	モリタ電化
4 / 26 (火)	タント リコール修理	奈良ダイハツ登美ヶ丘
6 / 2 (木)	和室クロス補修 小浴室扉補修及び床修繕	吉田建築
6 / 17 (金)	男性身障者トイレ鍵取替	吉田建築
6 / 20 (月)	消防設備点検	ベルテック
6 / 20 (月)	男性身障者トイレ柱腐食部分の修理	吉田建築
8 / 25 (木)	貯水槽の修理	オリックスファシリティズ
8 / 31 (水)	パラマウントベッド キャスター交換	パラテクノ
9 / 11 (日)	ワックスがけ	フジハラ美装
11 / 10 (木)	防災訓練	
1 / 7 (土)	電気設備点検	関西電気保安協会
1 / 18 (水)	ガス点検	大阪ガス
3 / 12 (日)	貯水槽清掃	オリックスファシリティズ
3 / 13 (月)	緊急消防立入検査	相楽中部消防組合
3 / 21 (火)	防災訓練	

社会福祉法人相楽福祉会

平成28年度 グループホームサポートセンター「樹葉」 事業報告（案）

従前から人員不足による労働過重や、夜間宿泊・休日日中支援における通所等他事業所職員への依存状態が大きな課題となっている。通所等他事業所職員のひと月あたりの配置回数は、男性は平成27年度4.3回から平成28年度3.8回、女性は同5.3回から同3.7回と減少した。男性は職員数が減少したものの支援体制の工夫が功を奏し、女性はアルバイト増加が要因である。この結果、通所等他事業所職員への依存率は平成27年度50.4%から平成28年度37.0%と低下し、夜勤稼働率も同40.0%から同58.2%と上昇した。徐々に安定した傾向がみられるが、休日に通所等他事業所職員を配置する割合は高くなっている。また、グループホーム担当職員の労働過重も解消できていない。当年度末で退職したアルバイトもあり、引き続きマンパワーの確保に取り組む必要がある。

生活支援においては、加齢から身体機能等低下がみられる入居者が徐々に増え、介護保険デイサービスの利用からケアマネジャーや介護保険事業所との連携が増えた。転倒ケガや誤嚥性肺炎等の入院が3件あった。

安心、安全の確保において、年々減少していた服薬支援事故は6件で前年度比2件増加した。また、前年度に引き続き入居者の加齢に伴う身体機能等低下による転倒、新たに介助を要する場面が増加している。今後の生活拠点が障害福祉グループホームのままでよいのか、介護保険事業所の居住サービスも選択肢に含めていただくことも必要かと考える。

<計画に即した評価>

1. 生活支援

- ・一人ひとりのニーズに沿った支援計画に基づいて支援し、必要に応じ見直しを行う。
- ・個人支援方針・方向性を他事業所サービスと調整する。また、介助手順・マニュアルや生活歴既往歴等のデータを充実させ、良質で均質な支援を継続する。
- ・高齢入居者に必要な介護や支援体制・住まいの形態について検討する。
- ・他法人事業所のサービスも活用し、介護や余暇支援の充実をはかる。

個別支援計画に基づいて支援を行なった。法人内他事業所との調整は十分行えたとはいえない。サービス利用計画作成時や困りごとがあったときに支援センターに助言や仲介を依頼した。介護保険サービスを利用している入居者については、ケアマネジャーや介護保険事業所等と随時会議にて情報共有を行った。介護保険対象入居者では、訪問リハビリや

訪問看護による機能訓練も活用した。なお、インフルエンザ、ノロウイルスに感染した入居者はいなかった。

当年度は企画別のレクリエーションを実施したほか、個人単位のガイドヘルプサービスを利用して休日支援を行なった。

他法人事業所のガイドヘルプサービスも活用できるよう調整を行なった。介護保険対象入居者の中では、土曜日や日曜日に介護保険デイサービスを利用した人もいた。

2. 安心、安全の確保

- ・危険物、薬品、貴重品等を厳重に管理し、間違いが起こらない環境整備に努める。
- ・支援方法や構造等における危険個所を随時確認し改善する。
- ・年2回の避難訓練等を行い火事や災害時の危機対応に備える。
- ・スプリンクラー未設置住居について、国庫補助協議を行う。

服薬支援事故は6件で前年度比2件増加した。ヒヤリハットも7件あり引き続き改善を要する。前年度から取り組んでいるかみこま相朋舎で他住居からの服薬確認連絡を受ける態勢、入居者の処方内容をリアルタイムで一元的に把握する体制は定着している。

前年度に引き続き、加齢に伴う身体機能等低下による転倒、新たに介助を要する場面が増加している。介護保険の福祉用具を活用し、居室や浴室に手すり等を設置した。

夜間や休日に、体調異変や転倒ケガ等で緊急通院等の対応が必要な場面で休日の職員が随時対応することが度々あり、緊急時の支援人員確保について検討した。

平成30年3月までの設置が義務化されているスプリンクラー設備は国庫補助協議を進め、補助金内示を受けた。平成29年度中に2住居で整備する予定。避難訓練は年2回実施した。

3. 支援の質の向上

- ・職種に関わらず支援に携わる者がお互いの支援の在り方について指摘し意見を交わすことによって入居者を尊重したよりよい支援を行う。
- ・計画的に研修・見学機会を設け、職員の人権意識、資質向上をはかる。

グループホーム運営での問題点や改善を要する事項を議論、集約したうえで他法人グループホームの見学を行なった（常勤3名非常勤2名参加）。見学先では同じような悩みや工夫を共有しつつも、建物設備や人的環境の違いなどに刺激を受けた。事業所、住居ごとの会議を開催し生活支援員・世話人各々の視点で入居者支援についての気づきや改善内容を共有した。また、チェックシートを用いて自身の振り返りを行った。

・夜勤や変形労働時間を活用し効率的な人員配置に努めるとともに、夜間休日の人員確保をすすめ、労働過重を改善する。

前年度からかみこま相朋舎の夜間支援員配置3名から2名に減員することを試行していたが、夜間に大きな問題もなかったため、週2～3回程度に拡大した。夜間支援ローテーションの1つは、35%削減できた。また、前年に引き続き夜間支援員アルバイトが新たに3名入職し、男女ともに法人常勤職員が減少している中、夜間支援体制は改善できた。

宿泊スタッフのほか朝夕の繁忙時間帯にはフォロー体制を敷いており、非常勤職員や変形労働時間を活用したものの他事業所への依存度も高い。はげ相朋舎では介護度が高まった入居者が増え、一時的に早朝勤務を複数配置する必要があった。今後も介護度の高まりから現状よりも手厚い人員配置を要することが予想される。

4. その他

住居間で生活費の徴収名目や金額が異なっている状況があり、一年間の支出実績に基づいて生活費を精査し、住居間で異なる取扱いがされていた部分を前年度是正し、当年度4月より適用を始めた。

5月の理事会において世話人への仮払金が多額であることの指摘を受け、夕食調理について食材配達業者を全面導入し、仮払金を解消した。食材の分量がメニューにより多すぎることや配達時間の遅延もありつつ各住居で工夫し定着してきた。一方、食材料の価格上昇から食費を中心に事業費収支が悪化しており、将来の建物修繕積立金が徐々に目減りしている状況がある。

<資料>

1. 利用者・住居の状況（平成29年3月31日現在）

	かみこま 相朋舎	ほうその 相朋舎	はげ 相朋舎	きたのどう 相朋舎
所在地	木津川市	精華町	木津川市	精華町
開設年	2005年	2014年	2013年	1999年
入居者数	男3、女3	男9	女9	女2
平均年齢	52.2歳	52.1歳	52.7歳	33.0歳
障害支援区分 (平均)	5.7	5.1	5.0	5.5
夜間支援体制	男2、女1	男2	女1	女1

※きたのどう相朋舎のうち、1名はサテライト住居（2015年開設）

全住居の平均区分が5を超え支援度が高い傾向がある。要介護認定を受けている入居者は当年度1名増え計5名。身体機能等の低下が目立つようにな

り、機能訓練が充実している介護保険サービスの活用頻度が増加した。当年度、ほうその相朋舎に1名の新規入居者を迎えた。

なお、きたのどう相朋舎は平成29年度に廃止する予定。

2. レクリエーション

前年度は住居ごとにレクリエーションを開催したが、当年度は企画を立て好きなコースに参加していただく形態をとった。同じ住居の入居者間でも趣味嗜好や快適なペースが異なること、個別ガイドヘルプの機会が少ない入居者がいることから、今後のレクリエーションのあり方も検討を要する。なお、平成30年度はグループホーム入居者全体でのレクリエーションを行うことを計画している。当年度の内容は次のとおり。

7/30（土） バーベキュー&木津川花火大会観賞（かみこま相朋舎）

9/22（祝） プロ野球観戦（京セラドーム大阪）

11/3（祝） 寿司会食（木津川寿司）

3. 研修

法人内研修および外部研修に参加した。法人内研修は業務上参加できない傾向が従来からあるが可能な限り参加した。外部研修は、強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）4名（うち1名基礎のみ）、知福協グループホーム研修3名、介護職員初任者研修受講1名。また、当年度は障害特性の理解度向上のため、自閉症 e サービスが主催する研修へ3名派遣した。前年度にできなかった他法人グループホームの視察を行ったが、1か所にとどまった。次年度以降も非常勤職員を含め学ぶ機会を増やし、資質向上をはかりたい。

4. 事故・苦情

服薬ミスは一昨年・昨年と年々減少していたが、当年度は昨年比2件増加した。ヒヤリハットも7件あり更なる改善を要する。転倒6件は捻挫等ケガに繋がったもの。入居者家族からの苦情は本人管理の所有物紛失、外部からの苦情は公共交通機関での迷惑行為。外部でのトラブルは、グループホームで把握できていないものもあると考えられる。

服薬ミス	6件
転倒（大きなもの）	6件
車両事故（物損）	0件
対外トラブル	2件
苦情（入居者家族より）	1件
苦情（外部より）	1件